美専シラバス 2026

# bisen Syllabus 2026

オーバル・アーツ学科版 ［初版］

学校法人 クリエイティブA
長野美術専門学校

美専シラバス 2026

# bisen Syllabus 2026

オーバル・アーツ学科版 ［初版］

## 美専シラバス2026［オーバル・アーツ学科］ 目次


| ページ | 科目名 | 代表配当<br>学科・年次 | 科目区分 | 講座種 | 選択種 |
|---|---|---|---|---|---|
| p. 1 | クリエイティブワーク総論Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ | 全科-1,2,3,4 | 専門 | 講義･演習 | CD・VD・VA必修科目／OA選択必修 |
| p. 2 | クリエイティブワーク総論OLA・OLB | OA-1,2 | 専門 | 講義･演習 | 選択必修 |
| p. 3 | 色彩 | 全科-1 | 専門 | 講義･演習 | 必修科目 |
| p. 4 | 色彩OL | OA-1 | 専門 | 講義･演習 | 選択必修 |
| p. 5 | キャリア講座Ａ | 全科-1 | 一般 | 講義･演習 | CD・VD・VA選択必修／OA選択 |
| p. 6 | キャリア講座Ｂ | 全科-2 | 一般 | 講義･演習 | CD・VD・VA選択必修／OA選択 |
| p. 7 | マーケティングOL | OA-1,2 | 一般 | 講義･演習 | 選択科目 |
| p. 8 | ＤＴＰ理論OL | OA-2 | 専門 | 講義･演習 | 選択科目 |
| p. 9 | アート研究OL | OA-1,2 | 専門 | 講義･演習 | 選択科目 |
| p. 10 | 映像理論Ａ | CD-1,2・VD-1 | 専門 | 講義･演習 | CD・VD選択／OA選択 |
| p. 11 | 映像理論OLA | OA-1,2 | 専門 | 講義･演習 | 選択科目 |
| p. 12 | 映像理論Ｂ | CD･VD･VA-2,3 | 専門 | 講義･演習 | CD・VD選択必修／VA･OA選択 |
| p. 13 | 映像理論OLB | OA-2 | 専門 | 講義･演習 | OA選択 |
| p. 14 | ＷＥＢ理論OL | OA-1,2 | 専門 | 講義・演習 | OA選択 |
| p. 15 | デザイン研究OL | OA-1,2 | 専門 | 講義･演習 | 選択科目 |
| p. 16 | ブランドマネージメント | CD･VD･OA-2 | 専門 | 講義･演習 | 選択科目 |
| p. 17 | ブランドマネージメントOL | OA-2 | 専門 | 講義・演習 | 選択科目 |
| p. 18 | 美術学習論OL | OA-1,2 | 専門 | 講義･演習 | 選択必修 |
| p. 19 | 映像制作入門 | CD･VD･OA-1 | 専門 | 講義･演習 | CD・VD選択必修／OA選択 |
| p. 20 | 映像表現OL | OA-2 | 専門 | 講義･演習 | 選択科目 |
| p. 21 | マンガ概論OL | OA-1,2 | 専門 | 講義･演習 | 選択科目 |
| p. 22 | インターンシップＡ | 全科-1 | 一般 | 講義･演習 | 選択科目 |
| p. 23 | インターンシップＢ | 全科-2 | 一般 | 講義･演習 | 選択科目 |
| p. 24 | ＷＥＢ表現 | 全科-1,2,3,4 | WEBメディア | 講義･演習 | CD・VD選択必修／VA･OA選択 |
| p. 25 | ベーシック・アーツＡ・Ｂ | OA-1,2 | 共通 | 実技 | 必修科目 |
| p. 26 | パーソナル・アーツゼミＡ・Ｂ | OA-1,2 | 共通 | 実技 | 選択必修 |
| p. 27 | コレクティブ・アーツゼミＡ・Ｂ | OA-1,2 | 共通 | 実技 | 選択必修 |
| p. 28 | 自由実践Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ・Ｇ・Ｈ | 全科-1,2,3,4 | 総合 | 実技 | 選択科目 |
| p. 29 | 美術学習論実習Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ | 全科-1,2,3,4 | 共通 | 実技 | 選択科目 |
| p. 30 | グラフィックデザイン基礎OLA | OA-1 | デザイン | 実技 | 必修科目 |
| p. 31 | グラフィックデザイン基礎OLB | OA-2 | デザイン | 実技 | 必修科目 |
| p. 32 | グラフィックデザイン基礎OLC | OA-1 | デザイン | 実技 | 必修科目 |
| p. 33 | ビジュアル表現OL | OA-1 | 共通 | 実技 | 必修科目 |
| p. 34 | タイポグラフィOL１ | OA-1,2 | デザイン | 実技 | 選択科目 |
| p. 35 | タイポグラフィOL２ | OA-2 | デザイン | 実技 | 選択科目 |
| p. 36 | グラフィックデザインOL | OA-2 | デザイン | 実技 | 選択科目 |
| p. 37 | 描写入門 | CD･VD･OA-1 | 共通 | 実技 | CD選択／必修VD必修／OA選択必修 |
| p. 38 | 描写入門OL | OA-1 | 共通 | 実技 | 選択必修 |
| p. 39 | 描写１ | CD･VD･OA-1 | 共通 | 実技 | CD選択必修／VD必修／OA選択必修 |
| p. 40 | 描写OL1 | OA-1 | 共通 | 実技 | 選択必修 |
| p. 41 | 描写２ | CD･VD3･OA-1 | 共通 | 実技 | CD・VD必修／OA選択 |
| p. 42 | 描写OL２ | OA-1,2 | 共通 | 実技 | 選択科目 |
| p. 43 | 描画表現A | CD-2,3･VD3･V | 共通 | 実技 | VD必修／VA・CD・OA選択 |
| p. 44 | 描画表現OLA | OA-2 | 共通 | 実技 | 選択科目 |
| p. 45 | 描画表現B | CD-2,3・VA･O | 共通 | 実技 | 選択科目 |
| p. 46 | 描画表現OLB | OA-2 | 共通 | 実技 | 選択科目 |
| p. 47 | ミューズ・アーツ１・２ | OA-1,2 | 共通 | 実技 | 必修科目 |
| p. 48 | プロモーションワークＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ | 全科-1,2,3,4 | 総合 | 実技 | 必修科目／VD3･VA3･CD選択・OA選択 |
| p. 49 | プロモーション講座Ａ・Ｂ | 全科-1,2 | 総合 | 実技 | 選択必修／OA選択 |

| 授業科目名 | クリエイティブワーク総論A・B・C・D | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | 専門 | ー | 全科共通 | 1・2・3・4年次 | 2(32) |
| 必修・選択 | 必修(C・Dは選択) | その他履修条件 | A…全科の1年次 ／ B…全科の2年次 ／ C…VA3・VD3・CDの3年次 ／ D…CDの4年次に配当 | | | | |
| 開講期 | 通年 | 代表曜日・時限 | 月1・2 | 資格対応 | ー | | |

| 担当教員 | 小林勝彦・松本直樹 | 講師の実務経験 | 20年以上 アートディレクター |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | 毎回、本校の教員や外部講師を、月1回程度のペースでゲストとして招き、その職業やこれまでのキャリアについての講話や講義を受けます。<br>これにより、自身が履修している科目が何のために必要なのか、将来どのように結びついていくのかを考え、クリエイティブの学びへの理解を深めます。<br>ゲスト講師は、クリエイティブの各分野において専門的な職能と職域を有しています。その講話は、自身の進路を考えるうえで得難い「道しるべ」となるはずです。 | | |
| 授業方法 | 講義中心の授業です。毎回、授業で取り扱うトピックスは異なります。これに合わせ授業担当講師の他に1～3名ほどのゲスト講師をお招きします。必要に応じてワークシートを配布し、基本的に授業内での完成をめざします。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 講義やワークシートを通し、考えや気づきをまとめる | ◯ |
| | 技能・成果 | - | △ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | ゲスト講師に質問などをし、積極的に授業へ参加する | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 各講師の思想や考え、あるいは現場でのエピソードなどを通しワーク（仕事）について理解を深める | ◯ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ワークシートやその他提出物 | 20 | ー | 20 | 20 | 60 |
| | 受講態度(出席等を含む) | ー | ー | 40 | ー | 40 |
| | 合計（点） | 20 | ー | 60 | 20 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>2/3以上の出席を満たさない場合、補講への出席や追加課題の提出を求めます。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 必要により配布 |
| その他参考書 | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
| 1回 | オリエンテーション、および本校講師を招き授業を行う |
| 2回～4回 | 随時、ゲスト講師を招く |
| 5・6回 | 総合制作のための集中講座 |
| 7回～8回 | 随時、ゲスト講師を招く |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 授業において取り上げたトピックスについて、各自、考えを深めてください。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | アートディレクター的観点から、様々なプロをゲスト講師として招聘し、現場で要請される様々な視点や考えを講義を通して学びます。 |
| 受講生へのメッセージ | 毎回、様々なジャンルのプロフェッショナルをお招きします。楽しみにしていてください。 |

| 授業科目名 | クリエイティブワーク総論OLA・B | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | 専門 | ー | OA | 1・2年次 | 2(32) |
| 必修・選択 | 選択必修 | その他履修条件 | A…OAの1年次 ／ B…OAの2年次<br>「クリエイティブワーク総論A・B」のどちらかを選択 | | | | |
| 開講期 | 通年<br>オンデマンド／一部配信 | 登校時<br>代表曜日・時限 | 月1・2 | 資格対応 | ー | | |

| 担当教員 | 小林勝彦・松本直樹 | 講師の実務経験 | 20年以上 アートディレクター |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | 本授業では、本校の教員および外部講師による講義ドキュメント（映像）を視聴し、それぞれの職業やこれまでのキャリアについて学びます。<br>これにより、自身が履修している科目の意義や、将来どのように結びついていくのかを主体的に考え、クリエイティブ分野における学びへの理解を深めます。各講師は、クリエイティブの各分野において専門的な職能および職域を有しており、その講義内容は、自身の進路を考える上で有益な指針となるはずです。<br>なお、本授業は基本オンライン形式（オンデマンド・一部リアルタイム配信と登校）で実施されます。オンデマンド形式では各自が主体的に視聴し、各回ごとの課題等を通じて理解を深めることが求められます。 | | |
| 授業方法 | オンデマンド／一部配信の講義中心の授業です。総合制作期切り替え時、および総合制作期スタート時にリアルタイム配信と登校形式での授業を予定しています。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 講義やレポート課題を通し、考えや気づきをまとめる | ◯ |
| | 技能・成果 | - | △ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | ゲスト講師に質問などをし、積極的に授業へ参加する | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 各講師の思想や考え、あるいは現場でのエピソードなどを通しワーク（仕事）について理解を深める | ◯ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | レポートやその他提出物 | 20 | ー | 20 | 20 | 60 |
| | 受講態度 | ー | ー | 40 | ー | 40 |
| | 合計（点） | 20 | ー | 60 | 20 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>2/3以上の視聴を満たさない場合、補講への出席や追加課題の提出を求めます。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | アートか? デザインか？ 1(オンデマンド) |
| 2回 | アートか? デザインか？ 2(オンデマンド) |
| 3回 | AIってクリエイティブ？(オンデマンド) |
| 4回 | 総合制作期に向けた学び(リアルタイム配信 or 登校) |
| 5・6回 | ミューズ・アーツのための集中講座(登校 or オンデマンド) |
| 7回 | 専門と一般(オンデマンド) |
| 8回 | クリエイティブは何を作り出すのか？(オンデマンド) |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 授業において取り上げたトピックスについて、各自、考えを深めてください。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | アートディレクター的観点から、様々なプロをゲスト講師として招聘し、現場で要請される様々な視点や考えを講義を通して学びます。 |
| 受講生へのメッセージ | 毎回、様々なジャンルのプロフェッショナルをお招きします。楽しみにしていてください。 |

| 授業科目名 | 色彩 | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | 専門 | ー | 全科共通 | 1年次 | 1(16) |
| 必修・選択 | 必修 | その他履修条件 | ー | | | | |
| 開講期 | 4月～6月(基礎履修期) | 代表曜日・時限 | 火・3 | 資格対応 | 色彩士検定3級 | | |

| 担当教員 | 松本小百合 | 講師の実務経験 | ー |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | プロのデザイナーやアーティストは、正しい理論の裏付けを持って色彩にたずさわることが必要です。この授業では、日本色彩研究所の研究に基づいて行われている「ADEC 色彩士検定」の教材を用い、色が知覚されるしくみから、色彩調和に必要な配色技法までを講義と演習により学びます。 | | |
| 授業方法 | 毎回テキストにそって講義を行い、必要な場合演習も行います。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | どんな演習課題も丁寧に仕上げる | ◯ |
| | 技能・成果 | ADEC色彩士検定3級取得に挑戦 | ◯ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | この授業で得た知識を他の授業や個人の創作につなげようという姿勢を持ち全8回の授業に出席 | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | ADEC色彩士検定3級相当の基礎理論の習得 | ◎ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物 | 10 | 10 | ー | 10 | 30 |
| | 受講態度 | ー | ー | 20 | ー | 20 |
| | 授業内テスト | ー | ー | ー | 50 | 50 |
| | 合計（点） | 10 | 10 | 20 | 60 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>出席と授業最終日に行うADEC色彩士検定3級模擬試験の結果が評価に大きく関わる。<br>授業内テストの結果が、規定の点数に満たない場合は、別途補講を受講するものとする。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 『Color Master BASIC 』『色彩士検定3級』 ノートパソコン、演習に必要な画材(アクリルガッシュ等)はその都度事前にお知らせする |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | オリエンテーション、講義･演習 第1章「色のなりたち」 |
| 2回 | 講義･演習 第2章「混色」 |
| 3回 | 講義･演習 第3章「色の表示方法」 |
| 4回 | 講義･演習 第４章「色の知覚的効果」 |
| 5回 | 講義･演習「補色対の調色」 |
| 6回 | 講義･演習 第5章「色の心理的効果」 |
| 7回 | 講義･演習 第6章「色彩調和」 |
| 8回 | ADEC色彩士検定3級模擬試験 |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 授業内で理解できなかった内容は、時間外に教科書を理解できるまで読み返してくること。 |
| 受講生へのメッセージ | 色を感じ伝えることはとても楽しいことです。その楽しみを知ると様々なところで活用したくなります！<br>自分以外の人に色を正確に伝えたり、理論を踏まえたビジュアル表現ができるよう基礎知識をしっかり学んでいきましょう。 |

| 授業科目名 | 色彩OL | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | 専門 | ― | OA | 1年次 | 1(16) |
| 必修・選択 | 選択必修 | その他履修条件 | 「色彩」のどちらかを選択 | | | | |
| 開講期 | 4月～6月（基礎履修期）<br>オンデマンド／試験登校 | 講師来校予定<br>代表曜日・時限 | 火・3 | 資格対応 | 色彩士検定3級 | | |

| 担当教員 | 松本小百合 | 講師の実務経験 | ― |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | プロのデザイナーやアーティストには、正しい理論の裏付けに基づいて色彩を扱う力が求められます。本授業では、日本色彩研究所の研究に基づいて実施されている「ADEC色彩士検定」の教材を用い、色が知覚される仕組みから、色彩調和に必要な配色技法までを体系的に学びます。 | | |
| 授業方法 | 授業はオンデマンド形式で実施し、テキストおよび課題を通じて理解を深めます。「ADEC色彩士検定3級」試験時は登校となります。各自が主体的に学修を進め、理論と実践の両面から色彩に関する基礎力の習得を目指します。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | どんな演習課題も丁寧に仕上げる | ◯ |
| | 技能・成果 | ADEC色彩士検定3級取得に挑戦 | ◯ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | この授業で得た知識を他の授業や個人の創作につなげようという姿勢を持ち全8回の授業に出席 | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | ADEC色彩士検定3級相当の基礎理論の習得 | ◎ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物 | 10 | 10 | ― | 10 | 30 |
| | 受講態度 | ― | ― | 20 | ― | 20 |
| | 授業内テスト | ― | ― | ― | 50 | 50 |
| | 合計（点） | 10 | 10 | 20 | 60 | 100（点） |

| | |
|---|---|
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>出席と授業最終日に行うADEC色彩士検定3級模擬試験の結果が評価に大きく関わる。<br>授業内テストの結果が、規定の点数に満たない場合は、別途補講を受講するものとする。 |
| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom 、『Color Master BASIC 』『色彩士検定3級』 ノートパソコン、演習に必要な画材（アクリルガッシュ等） |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | オリエンテーション＆第1章「色のなりたち」 |
| 2回 | 第2章「混色」 |
| 3回 | 第3章「色の表示方法」 |
| 4回 | 第4章「色の知覚的効果」 |
| 5回 | 第5章「色の心理的効果」 |
| 6回 | 第6章「色彩調和」 |
| 7回 | 試験対策 |
| 8回 | ADEC色彩士検定3級模擬試験 |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 授業内で理解できなかった内容は、時間外に教科書を理解できるまで読み返してくること。 |
| 受講生へのメッセージ | 色を感じ伝えることはとても楽しいことです。その楽しみを知ると様々なところで活用したくなります！<br>自分以外の人に色を正確に伝えたり、理論を踏まえたビジュアル表現ができるよう基礎知識をしっかり学んでいきましょう。 |

| 授業科目名 | キャリア講座B | 科目種 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | ー | 全科共通 | 2年次 | 1(16) |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 必修・選択 | CD・VD・VA選択必修<br>OA選択 | その他履修条件 | 【履修上の注意】「キャリア講座B」は、「キャリアデザインB」を履修する過程で困難が生じた際、担当講師等との面談を経て、履修することができます。 | | |
| 開講期 | 通年 | 代表曜日・時限 | 月・2 | 資格対応 | ビジネス能力検定3級 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 依田由美子・小林駿 | 講師の実務経験 | ー |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | キャリアデザインとは、自分自身の職業人生について、自らが主体となって構想(＝デザイン)し、実現していくことを指します。キャリア講座Bはキャリア講座Aに引き続き自身のキャリアについて考え、自己探求をし、さらに人間力を養うことを目的とします。<br>また、授業を通して自分軸、共感力や主体性などの非認知能力を養います。 |
| 授業方法 | 個人、少人数グループで学びます。講義だけでなく、グループの相互作用の中で学びあい創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルです。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 自分自身の考えを相手に伝えるための表現方法を学ぶ<br>他者と意見交換することで多様な考えを受け入れ、広い視野を持つ | ◎ |
| | 技能・成果 | - | △ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 自ら積極的に関わり、目の前の事柄にどのように取り組めるか考え、行動に移す | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学び、ビジネス能力検定3級合格を目指す<br>授業内での指示や連絡を正確に理解する | ○ |
| | 備考 | ◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 提出物 | 10 | ー | 5 | 5 | 20 |
| | 資格試験 | 20 | ー | ー | ー | 20 |
| | グループワーク | 10 | ー | 15 | 5 | 30 |
| | 受講態度(出席等を含む) | 10 | ー | 20 | ー | 30 |
| | 合計（点） | 50 | ー | 40 | 10 | 100（点） |

| | |
|---|---|
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。<br>ビジネス能力検定の受験、第8回の自己評価提出、および2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。<br>※キャリア講座Aにて日本語検定を受験していない学生は、上記成績評価の要件に11月6日(金)日本語検定の受験も含みます。<br>授業を通して学生一人ひとりがどれだけ変化できたかを重視し、評価します。 |
| テキスト・教材 | ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト ・ビジネス能力検定3級受験料3,800円 ・その他必要に応じて配布 |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 第1回 | 【自己理解①】キャリアデザインBの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。 自身の人生や仕事をしていく上での目指す姿や目標を考える。[主体性] |
| 第2回-第5回 | 【ビジネス能力検定対策①②③④】社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学ぶ。[課題発見力・規律性] |
| 第6回 6月8日(月) | ビジネス能力検定3級受験日 |
| 第7回 | 【経済と金融】金銭・経済・投資などのお金に関連する知識をつけ、向き合い方を学ぶ。[規律性] |
| 第8回 | 【ふりかえり】キャリア講座Bをふりかえり、自身の変化に気付く。 [課題発見力・情況把握力] |
| 備考 | 授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | ビジネス能力検定に向けて各自学びを進める。 |
| 受講生へのメッセージ | 卒業後の自分自身を意識し、 自分で道を切り拓いていける力を身につけていきましょう。キャリア講座Bの授業を通して、 学生一人ひとりが変化することを期待します。 |

| 授業科目名 | マーケティングOL | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | 一般 | ー | OA | 1・2年次 | 1(16) |
| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | ー | | | | |
| 開講期 | 4月～6月（基礎履修期）<br>オンデマンド | 講師来校予定<br>代表曜日・時限 | 月3 | 資格対応 | ー | | |

| 担当教員 | 和田邦彦 | 講師の実務経験 | ◯ |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | 「マーケティング」の概念や手法は、ビジネスに限らず、さまざまな分野において応用されています。本授業では、「マーケティング」を学ぶことで創作のヒントを得て、それらを実践的に活用できる力の習得を目指します。また、『SWOT分析』などのフレームワークを用いながら、私たちを取り巻く課題や問題を整理し、その解決方法について理解を深めます。 | | |
| 授業方法 | 授業はオンデマンド形式で実施し、講義映像の視聴および課題演習を通じて、主体的に学修を進めることが求められます。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 「マーケティング」の手法・概念を創作活動をはじめ様々な場面でに活かせることを実感する | ◎ |
| | 技能・成果 | 社会の変化や行動変化に新しい視点を手に入れ、創作に活かす能力を育成する | ◯ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | マーケティング＆ブランディングに興味・関心を持ち能動的に学び理解・活用しようとする意欲の継続 | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 「マーケティング」の多岐にわたる概念を理解して知識・スキルとして蓄積する | ◎ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 課題の完成度 | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 |
| | まとめ（課題提出の遅延） | ー | 10 | 10 | 10 | 30 |
| | 受講状況 | ー | ー | 15 | 15 | 30 |
| | 合計（点） | 10 | 20 | 35 | 35 | 100 （点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>各回について簡単な課題(感想等)の提出を求めます。提出が受講状況の確認になります。未提出は成績評価に多大に反映します。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom、「新版 通勤大学MBA2 マーケティング」総合法令出版㈱ |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | 『マーケティングとは？』マーケティングの必要性、各分野でのマーケティング　プロセス　4P　マーケティングの定義 |
| 2回 | 『自社(自分)を知る？』　4P　STP　セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング　　ポジショニング・マップの作成(課題) |
| 3回 | 前回までの学習についてテキストを用いて復習、マーケティングの変遷 |
| 4回 | 『SWOT分析』　「S:強み」「W:弱み」「O:機会」「T:脅威」からクロスSWOTを活用して各自が決めたテーマを分析する |
| 5回 | 『ブランドって？』ブランド・エクイティ、ブランディング、知的財産権(商標権) |
| 6回 | 『MMって？』製品政策　ブランド　ネーミング　パッケージング　保証やサービス |
| 7回 | 『PLCって？』導入期　成長期　成熟期　衰退期 |
| 8回 | 『Promotion』プロモーション政策　プロモーションの手段　プロモーション・ミックス　　総括＝マーケティングを学んだことを表現する(課題) |
| 備考 | 8回の授業展開は内容(回)の順序が変わっていくこともある。 |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 「マーティング」の概念が社会生活において当たり前に存在しています。例えば、新商品開発や商品のランキング、テレビ番組での紹介、ネットショッピング、CM等、リアル店舗における商品陳列・POP等にもマーケティングの手法が活用されいます。日常の消費行動の際に「マーケティングとは？」という視点で観察することが、リアルタイムにマーケティングの学習になります。 |
| 受講生へのメッセージ | マーケティングの学ぶことで、クリエイティブな活動の一助となると思います。世の中を見渡すことも大切です。<br>あらゆる分野への興味・関心、探究心が知識・能力の蓄積をもたらして創作時の発想・創意や意欲に繋がると思います。 |

| 授業科目名 | DTP理論OL | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | 専門 | ー | OA | 2年次 | 2(32) |
| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | ー | | | | |
| 開講期 | 令和9年度開講(予定) | 講師来校予定<br>代表曜日・時限 | 木3 | 資格対応 | Illustrator／Photoshopクリエイター能力認定試験 | | |

| 担当教員 | 山﨑澄子 | 講師の実務経験 | 15年以上 | デザイン |
|---|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | | | |
| 授業方法 | オンデマンド形式の授業。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | | |
| | 技能・成果 | | |
| | 意欲・自主性・姿勢 | | |
| | 目的意識・共感性 | | |
| | 備考 | ◎・〇・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合計（点） | 30 | 20 | 20 | 30 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | |
| 2回 | |
| 3回 | |
| 4回 | |
| 5回 | |
| 6回 | |
| 7回 | |
| 8回 | |
| 9回 | |
| 10回 | |
| 11回 | |
| 12回 | |
| 13回 | |
| 14回 | |
| 15回 | |
| 16回 | |
| 備考 | |

令和9年度開講に向けて設定中

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | |
| 講師の実務経験と授業の関係 | |
| 受講生へのメッセージ | |

| 授業科目名 | 映像理論A | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | 専門 | ー | CD・VD・OA | 1・2年次 | 1(16) |
| 必修・選択 | CD・VD選択／OA選択 | その他履修条件 | － | | | | |
| 開講期 | 4月～6月(基礎履修期) | 代表曜日・時限 | 水2 | 資格対応 | － | | |

| 担当教員 | 小林駿 | 講師の実務経験 | ー |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | 「映画」を分析するという行為を通して『考える力』と『伝える力』を養う<br>考える力とは、物事を様々な角度から読み解き、その本質を捉え判断する力であり<br>伝える力とは、自身の思考を「他者」の共感を呼ぶ文字や言葉に置き換えて発信する力である。 | | |
| 授業方法 | まず映画作品の鑑賞を行う。<br>次にその内容を適当な観点から分析し、レポートにまとめる。<br>最後に、レポートの内容をまとめてプレゼンテーションする。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 様々な知識や理論の存在に目をむけることができる | ◯ |
| | 技能・成果 | 批判的思考と、それを言語化・伝達することができる資質を養う | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 自身の思考のみならず、他者の思考に対しても向き合い、関わろうとする姿勢を形作る | ◯ |
| | 目的意識・共感性 | 様々な表現に対して開かれた感受性の獲得を目指す | ◎ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | レポートの提出 | － | 15 | － | 15 | 30 |
| | プレゼンテーションに係るプロセス | 10 | 15 | 10 | 15 | 50 |
| | 受講態度（出席等を含む） | 10 | － | 10 | － | 20 |
| | 合計（点） | 20 | 30 | 20 | 30 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優：100点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 必要に応じて配布 |
| その他参考書 | 必要に応じて配布 |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 第1回 | 【授業オリエンテーション】この授業での学び方　／　研究作品の選択 |
| 第2回 | 「キートンのカメラマン」の鑑賞 |
| 第3回 | 「キートンのカメラマン」の分析　／　プレゼンにむけた個別相談 |
| 第4回 | 中間プレゼンテーション |
| 第5回 | 「遊星よりの物体X」の鑑賞 |
| 第6回 | 「遊星よりの物体X」の分析　／　プレゼンにむけた個別相談 |
| 第7回 | プレゼンテーション |
| 第8回 | 【授業ふりかえり】この授業で学んだこと |
| 備考 | 授業内容については、履修生の人数やそれぞれの進捗などに合せ、より適当な学習意義があるものに変更となる場合があります |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 映画作品の鑑賞は授業時間内で終了することを企図していますが、進捗状況により収まらないケースも想定されます。<br>その場合は、各個人で時間外に視聴していただくことになりますのでご了承下さい。<br>分析を行う回については、対象となる作品を、既に鑑賞済みであるという前提の下に進行します。 |
| 受講生へのメッセージ | 多くの表現に触れながら、自身の考えとクリエイティビティを深めましょう！ |

| 授業科目名 | 映像理論OLA | | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義・演習 | 専門 | ー | OA | 1・2年次 | 1(16) |
| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | ー | | | | | |
| 開講期 | 令和9年度開講(予定) | 講師来校予定代表曜日・時限 | 水2 | 資格対応 | ー | | | |

| 担当教員 | 小林駿 | 講師の実務経験 | ー |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | | | |
| 授業方法 | オンデマンド形式の授業。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | | |
| | 技能・成果 | | |
| | 意欲・自主性・姿勢 | | |
| | 目的意識・共感性 | | |
| | 備考 | ◎・〇・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合計（点） | 20 | 30 | 20 | 30 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優：100点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 第1回 | |
| 第2回 | |
| 第3回 | |
| 第4回 | |
| 第5回 | |
| 第6回 | |
| 第7回 | |
| 第8回 | |
| 備考 | |

令和9年度開講に向けて設定中

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | |
| 受講生へのメッセージ | |

| 授業科目名 | 映像理論B | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | 専門 | – | 全科共通 | 2・3年次 | 2(32) |

| 必修・選択 | CD・VD選択必修／VA・OA選択 | その他履修条件 | 「ムービーメイキング」、「写真表現」を履修する場合は必須 |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 4月～6月（基礎履修期）<br>7月～10月（ゼミ期） | 代表曜日・時限 | 月4 | 資格対応 | – |

| 担当教員 | 吉田章一 | 講師の実務経験 | 10年以上 映像ディレクター |
|---|---|---|---|

| 授業概要 | 映像クリエイターが制作現場で必要となる基礎理論の修得を目標に、映像の様々な表現方法が何故必要とされてきたのか、それをどのように使って自分の表現とするのか、映像クリエーターとして現場で必要となる基礎理論を、映画史概要と映像制作の流れから始めて映像表現のための基礎知識や基本的な手法を学びます。 |
|---|---|
| 授業方法 | 映像制作に必要な理論を年代別に具体例を鑑賞しつつ講義を進めます。翌週の授業の冒頭で理解度のテストを行います。中間で実際に映像制作に必要な課題のレポートを提出します。 |

| 授業目標 | | | |
|---|---|---|---|
| | 知識・創意・観点 | 映像制作の理論と映像史を学び、映像制作の課題レポートを制作します | ◎ |
| | 技能・成果 | 映像制作の実際の技術、企画、準備、撮影、演出、照明、音声など具体例とともに学びます | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 毎週理解度の小テストを行います | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 映像表現の理論を学び映像を評価できる判断力を付けます。 | ◎ |
| | 備考 | ◎・〇・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物(レポート) | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 |
| | その他提出物(小テスト) | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 |
| | 受講態度(出席等を含む) | – | – | 10 | 10 | 20 |
| | 合計（点） | 20 | 20 | 30 | 30 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>小テストの取り組み方、課題の映像作品鑑賞姿勢、授業外での鑑賞することなども受講態度に反映します。 | | | | | |

| テキスト・教材 | 講師作成の教材をPDFでアップロードし、受講期間中は見直すことも可能です。 |
|---|---|
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | 映像と動画の概要　映画の誕生　映画のカメラと映写機　著作権・肖像権 |
| 2回 | 映像史概要　モンタージュ理論とトーキーの出現　スクリーンの大型化とビデオの出現 |
| 3回 | 映像制作の流れ・企画(プランニング)テーマの設定　映像手法の選択　実写とアニメーションやCG　シナリオと絵コンテ |
| 4回 | 撮影　レンズの特性　画面サイズ　カメラの高さとアングル　カメラ・ワーク　ロケハン |
| 5回 | 照明1　ライト・ポジション　照明の役割　RGBとYMCK　色彩表現～照度と色彩 |
| 6回 | 照明2　照明機材　3灯照明の基本と応用 |
| 7回 | 素材制作　2DCGと3DCG　画像合成　アニメーション　音素材と選曲 |
| 8回 | 音声　音声の物理　スタジオ録音　ロケ現場での録音　MA(マルチレコーディング) |
| 9回 | 編集1　編集の役割　イマジナリーライン |
| 10回 | 編集2　編集の技法　音によるカッティング |
| 11回 | 絵コンテまたはレポート課題 出題 |
| 12回 | 特撮の歴史と技法　特撮とは |
| 13回 | アニメーションの歴史 |
| 14回 | 日本アニメの歴史 |
| 15回 | モンタージュ理論の実際 実際に映画をモンタージュ理論から分析 |
| 16回 | まとめと関連知識【絵コンテまたはレポート課題 提出】 |
| 備考 | 初回授業開講前に、受講者事前アンケートを実施します。 |

| 時間外での学修 | 授業中に取り上げた映像作品を授業外で鑑賞すること。講師作成資料を復習すること。 |
|---|---|
| 講師の実務経験と授業の関係 | 経験豊富な映像ディレクターから、映像制作に不可欠な基礎的知識を学びます。 |
| 受講生へのメッセージ | 映像は100年以上をかけて発展してきたビジュアルと言葉と音声の総合芸術です。今までの鑑賞する側から制作する立場に視点を移して学んでいきましょう。 |

| 授業科目名 | 映像理論OLB | | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義･演習 | 専門 | – | OA | 2･3年次 | 2(32) |
| 必修・選択 | 選択科目 | その他履修条件 | | | | | | |
| 開講期 | 令和9年度開講(予定) | 講師来校予定代表曜日・時限 | 月4 | 資格対応 | – | | | |

| 担当教員 | 吉田章一 | 講師の実務経験 | 10年以上 映像ディレクター |
|---|---|---|---|

| 授業概要 | |
|---|---|
| 授業方法 | オンデマンド形式の授業。 |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 |
| | 技能・成果 |
| | 意欲・自主性・姿勢 |
| | 目的意識・共感性 |
| | 備考：◎･○･△の記号は、到達指標･単位認定との結びつきの強さを示しています。 |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合計（点） | 20 | 30 | 20 | 30 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優：100点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点～となります。 | | | | | |

| テキスト・教材 | |
|---|---|
| その他参考書 | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
| 第1回 | 令和9年度開講に向けて設定中 |
| 第2回 | |
| 第3回 | |
| 第4回 | |
| 第5回 | |
| 第6回 | |
| 第7回 | |
| 第8回 | |
| 備考 | |

| 時間外での学修 | |
|---|---|
| 講師の実務経験と授業の関係 | |
| 受講生へのメッセージ | |

| 授業科目名 | WEB理論OL | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | 専門 | ― | OA | 1・2年次 | 1(16) |
| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | - | | | | |
| 開講期 | 4月～6月（基礎履修期）<br>オンデマンド | 講師来校予定<br>代表曜日・時限 | 金3 | 資格対応 | ― | | |

| 担当教員 | 小林武 | 講師の実務経験 | 15年以上 | Web制作 |
|---|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | 本授業では、書籍『新人IT担当者のためのWebサイト 構築＆運営がわかる本』を基礎資料として、Webサイトの構築および運営に関する基礎知識を学びます。<br>各回では、課題に沿った該当セクションを読み進めるとともに、講義映像による解説を通じて理解を深めます。<br>また、エッセイや課題を毎回提出することで、学生の主体的な学修と興味関心の喚起を図ります。<br>必要に応じて、実際のWeb画面や講師の制作事例等を用いて解説を行い、実践的な理解の促進を目指します。 | | |
| 授業方法 | 授業はオンデマンド形式で実施し、指示されたページを読む、説明を受ける、課題を提出する。というパターンで毎回行います。<br>分からない点を質問したり、気づいた点などを講師に共有する、といった形で授業を進めていきます。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | インターネットとウェブサイトの関係性の考察 | △ |
| | 技能・成果 | インターネットそのものに慣れ親しむ | △ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 勉強への取り組み、出席状況 | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 書籍に記載されている内容に対する理解 | ◎ |
| | 備考 | ◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 知識テスト | ― | ― | ― | 50 | 50 |
| | 受講態度（出席等を含む） | ― | ― | 50 | ― | 50 |
| | 合計（点） | ― | ― | 50 | 50 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>出席と興味重視。最後に行う知識テストは提出必須となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom |
| その他参考書 | 『新人IT担当者のためのWebサイト 構築＆運営がわかる本』 |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | オリエンテーション ウェブ制作のイメージ |
| 2回 | ウェブサイト運営における目的について |
| 3回 | CMSとは |
| 4回 | 誰にウェブサイトに訪れてもらいたいか |
| 5回 | 使用されている端末のシェア OSのシェア |
| 6回 | ウェブサイトは分析ツールでもある |
| 7回 | マーケティングファネル コンバージョン率 |
| 8回 | セキュリティリスク |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 書籍の読み直し、インターネットに親しむ（ネットサーフィン）、課題を出す場合もあります。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | 一般企業も含めたWeb管理において必要な基本的知識を、Web制作のプロの幅広い視点で学びます。 |
| 受講生へのメッセージ | 少しでもウェブに興味があり、デザイン業界に就職する学生におすすめします。 |

| 授業科目名 | デザイン研究 | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | 専門 | ー | VD共通 | 1年次 | 1(16) |
| 必修・選択 | 必修 | その他履修条件 | ー | | | | |
| 開講期 | 7月～10月（ゼミ期） | 代表曜日・時限 | 木3 | 資格対応 | | | |

| 担当教員 | 小林勝彦・小林健太郎 | 講師の実務経験 | 20年以上 | アートディレクター |
|---|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | デザイン分野のトピックスと、近代の運動史を取り上げ、実践に必要な理論を習います。 | | |
| 授業方法 | 講義中心の授業ですが、授業内では、必要に応じ簡単な演習をおこないます（必要な素材や道具などは前の授業内でお知らせします）。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | デザインの歴史や理論を理解する | ◎ |
| | 技能・成果 | ケーススタディを通じて、思考力を身につける | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 習った知識を通じ、常に新しい考え方を模索する | ○ |
| | 目的意識・共感性 | デザインワークの目的や意義を理解する | ○ |
| | 備考 | ◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | レポートやその他提出物 | 20 | ー | 20 | 20 | 60 |
| | 受講態度（出席等を含む） | ー | ー | 20 | 20 | 40 |
| | | ー | ー | ー | ー | ー |
| | 合計（点） | 20 | ー | 40 | 40 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom、『現代デザイン入門／勝見勝』 |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | オリエンテーション |
| 2回 | 課題を題材に考察 |
| 3回 | デザインの目的の考察 |
| 4回 | 前半まとめ |
| 5回 | ウイリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動 |
| 6回 | アール・ヌーヴォー |
| 7回 | バウハウスのデザイン運動 |
| 8回 | まとめ |
| 備考 | 授業の進行状況により、トピックとスケジュールが変更になることがあります。 |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 取り上げたトピックには別のトピックがつながっていくでしょう。それらを見つけてください。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | アートディレクター・デザイナーによる実践を伴った理論や歴史の学び。 |
| 受講生へのメッセージ | デザインワークの本質について、考えていきましょう。 |

| 授業科目名 | デザイン研究OL | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | 専門 | ー | OA | 1・2年次 | 1(16) |

| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | ー |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 7月～10月（ゼミ期）<br>オンデマンド | 講師来校予定<br>代表曜日・時限 | 木3 | 資格対応 | |

| 担当教員 | 小林勝彦・小林健太郎 | 講師の実務経験 | 20年以上 | アートディレクター |
|---|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | デザイン分野のトピックスと、近代の運動史を取り上げ、実践に必要な理論を習います。 | | |
| 授業方法 | 講義中心の授業ですが、授業内では、必要に応じ簡単な演習をおこないます（必要な素材や道具などは前の授業内でお知らせします）。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | デザインの歴史や理論を理解する | ◎ |
| | 技能・成果 | ケーススタディを通じて、思考力を身につける | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 習った知識を通じ、常に新しい考え方を模索する | ○ |
| | 目的意識・共感性 | デザインワークの目的や意義を理解する | ○ |
| | 備考 | ◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | レポートやその他提出物 | 20 | ー | 20 | 20 | 60 |
| | 受講態度（出席等を含む） | ー | ー | 20 | 20 | 40 |
| | | ー | ー | ー | ー | ー |
| | 合計（点） | 20 | ー | 40 | 40 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom、『現代デザイン入門／勝見勝』 |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | オリエンテーション |
| 2回 | 課題を題材に考察 |
| 3回 | デザインの目的の考察 |
| 4回 | 前半まとめ |
| 5回 | ウイリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動 |
| 6回 | アール・ヌーヴォー |
| 7回 | バウハウスのデザイン運動 |
| 8回 | まとめ |
| 備考 | 授業の進行状況により、トピックとスケジュールが変更になることがあります。 |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 取り上げたトピックには別のトピックがつながっていくでしょう。それらを見つけてください。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | アートディレクター・デザイナーによる実践を伴った理論や歴史の学び。 |
| 受講生へのメッセージ | デザインワークの本質について、考えていきましょう。 |

| 授業科目名 | ブランドマネージメント | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | 専門 | ◯ | CD・VD・OA | 2・3年次 | 1(16) |
| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | － | | | | |
| 開講期 | 7月～10月（ゼミ期） | 代表曜日・時限 | 水1 | 資格対応 | ブランド・マネージャー資格試験3級 | | |

| 担当教員 | 島田良 | 講師の実務経験 | 10年以上 経営企画 ブランディング |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | 新しい価値を生み出し、ビジネスデザインや商品企画の分野で活躍するために必要なマーケティング・ブランディングの基礎知識と、再現性のある「型」を学びます。テーマは「感性頼りのデザイン」から「感性×言語化できるデザイン」への進化。生成AIをクリエイターの"思考パートナー"として活用しながら、「感性」と「論理」と「AI」の三位一体で、これからの時代に必要とされる人材へレベルアップする方法を体感してください。 | | |
| 授業方法 | 公式テキストを使用し、授業を行います。豊富な事例紹介だけでなく、個人、グループでのワークショップ（体験型学習）を通して、初心者でも体感的に理解しやすい講座運営を心がけます。そして、受講成果として認定試験「ブランド・マネージャー3級」合格を目指します。 | | |
| 授業目標 | 思考・判断・表現 | テキスト内容を理解するだけでなく、物事を観る様々な視点を身につける。 | ◎ |
| | 技能 | ― | △ |
| | 関心・意欲・姿勢 | 自分の意見を発言するだけでなく、他人の意見に耳を傾けることを大切にする。 | ◯ |
| | 知識・理解 | マーケティング、ブランディングの基礎知識を学び、ブランド・マネージャー検定（3級）合格を目指す。 | ◎ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ブランド・マネージャー検定試験に挑戦 | 10 | ― | 10 | 10 | 30 |
| | ブランド・マネージャー検定試験の結果 | 10 | ― | ― | 10 | 20 |
| | 受講姿勢（出席等を含む） | 10 | ― | 20 | 20 | 50 |
| | 合計（点） | 30 | ― | 30 | 40 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優：100点～65点、良：64点～50点、可：49点～40点、不可：39点～となります。<br>ブランド・マネージャー検定の受験、および2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。<br>認定試験結果（合否/点数）をご報告ください。合否だけでなく、点数も評価の対象になります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 主に『ブランド・マネージャー資格検定 公式テキスト』。その他については、必要に応じて配布します。<br>費用として上述のテキスト代に加え、ブランド・マネージャー検定（3級）試験の試験料が必要です。 |
| その他参考書 | 『ChatGPTと描くブランドの設計図』（講師共著）『新版 社員をホンキにさせるブランド構築法』（講師共著） |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | 【講座の目的】『ブランドの基礎知識①（第1章前半）』 ブランドとは？定義を揃える |
| 2回 | 『ブランドの基礎知識②（第1章後半）』『ブランドの重要性（第2章）』 ブランドづくりに大切な種類と階層、ブランド想起のされ方、ブランドのメリット |
| 3回 | 『ブランディングの基礎知識（第3章）』 ブランディングとは何をすることなのか？、ブランドマネージャーの役割 |
| 4回 | 『ブランド要素とブランド体験①（第4章前半）』 ブランドを表現する様々な要素（ロゴ、マーク、パッケージなど）事例で学ぶ |
| 5回 | 『ブランド要素とブランド体験②（第4章後半）』 ブランド体験の仕組みを事例と自身の体験から学ぶ |
| 6回 | 『マーケティングの基礎知識（第5章）』 マーケティングの仕組みと顧客の成長プロセス |
| 7回 | 『ブランディングの手法①（第6章前半）』ブランド構築の8ステップ（環境分析～独自性の発見） |
| 8回 | 『ブランディングの手法②（第6章後半）』ブランド構築の8ステップ（BI～目標設定）【まとめ】自身の活動に活かすために |
| | ※この他「検定対策講座」ならびに「検定実施日」などが11月上旬頃までにかけて設定される予定です |
| 備考 | 初回授業開講前に、受講者事前アンケートを実施します。 |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 授業中は重要知識のポイントのみ解説しますので、事前にテキストの該当箇所や動画教材などを予習してきて下さい。<br>学んだことを、自分の興味があることや、他の授業の課題に活かしてください。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | 自社でブランディングの知識、経験を活かすことはもちろん、民間企業、非営利団体、地方自治体など、様々なブランドづくりのお手伝いをしてきました。講師としても、規模の大小を問わず、経営者から現場のクリエイターまで、様々な方にブランディングの基礎知識をお伝えしています。 |
| 受講生へのメッセージ | 「ブランディング」というと難しそうに感じるかも知れませんが、事例や自身の体験を振り返るワークを多用しますので、知識ゼロからスタートしても、基礎知識を身につけることが可能です。「伝わるデザイン」を創りたい方、ぜひ、受講してみてください！ |

| 授業科目名 | ブランドマネージメントOL | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義･演習 | 専門 | ◯ | OA | 2年次 | 1(16) |

| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | － |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 令和9年度開講(予定) | 講師来校予定<br>代表曜日・時限 | 水1 | 資格対応 | ブランド･マネージャー資格試験3級 |

| 担当教員 | 島田良 | 講師の実務経験 | 10年以上 経営企画 ブランディング |
|---|---|---|---|

| 授業概要 | |
|---|---|
| 授業方法 | オンデマンド形式の授業。 |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 |
| | 技能・成果 |
| | 意欲・自主性・姿勢 |
| | 目的意識・共感性 |
| | 備考：◎･◯･△の記号は、到達指標･単位認定との結びつきの強さを示しています。 |

| 観点別評価 | 評価方法 ＼ 評価の観点 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合計（点） | 30 | 20 | 20 | 30 | 100（点） |

| 評価の特記事項 | |
|---|---|
| テキスト・教材 | |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | |
| 2回 | |
| 3回 | |
| 4回 | |
| 5回 | |
| 6回 | |
| 7回 | |
| 8回 | |
| 9回 | |
| 10回 | |
| 11回 | |
| 12回 | |
| 13回 | |
| 14回 | |
| 15回 | |
| 16回 | |
| 備考 | |

令和9年度開講に向けて設定中

| 時間外での学修 | |
|---|---|
| 講師の実務経験と授業の関係 | |
| 受講生へのメッセージ | |

| 授業科目名 | 美術学習論OL | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | 専門 | ー | OA | 1・2年次 | 1(16) |

| 必修・選択 | 選択必修 | その他履修条件 | 「美術学習論実習」を履修するためには必修 |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 4月～6月（基礎履修期）<br>オンデマンド | 講師来校予定<br>代表曜日・時限 | 月2 |
| 資格対応 | － | | |

| 担当教員 | 松本小百合 | 講師の実務経験 | |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | 美術学習（広くは「美育」）とは、与えられた素材を変化させ、それを乗り越えようとする一次的な体験を通して、自発性や主体性を育む貴重な学びの場です。本授業では、こうした学びや育みの重要性を理解するとともに、その方法について学びます。<br>授業では、ワークショップの実例をスライドとテキスト等を通じて学修します。<br>また、既存のワークショップ事例を理解するだけでなく、課題を通して受講者自身がワークショップを設計することに取り組み、実践的な理解を深めます。 | | |
| 授業方法 | 授業はオンデマンド形式で実施し、講義映像の視聴および課題制作を通じて主体的に学修を進めることが求められます。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 「美術学習（美育）」意義を考え、ワークショップ毎の特徴を掴む分析力・洞察力、さらに企画力をつける | ◎ |
| | 技能・成果 | ワークショップ企画の組み立て方や、方法、手順、目標の設定など、企画を具体的に考える構想力を養う | ◯ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 様々な事例に興味を示し、その特徴を自ら発見していく能動的な姿勢を養う | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 「美術学習（美育）」の意義を知る | ◎ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ワークシート | 10 | 5 | 15 | 15 | 45 |
| | その他提出物 | 20 | 5 | ー | 10 | 25 |
| | 受講態度（出席等を含む） | ー | ー | 20 | ー | 20 |
| | 合計（点） | 30 | 10 | 35 | 25 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優：100点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | テキストは必要により配布、また演習での教材も必要に応じ配布予定（ただし、一般的に手に入るものであれば、事前に用意するようお知らせします） |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | オリエンテーション／美術学習・美育について／「ながのこども美術学校」について |
| 2回 | ［事例1・2］「ながのこども美術学校」での取り組み |
| 3回 | ［事例3・4］「ながのこども美術学校」での取り組み |
| 4回 | ワークショップとは、何？ |
| 5回 | 教案の作り方　6W2H |
| 6回 | 自分で講座を考えよう |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 事前に学習として「美育」などのキーワードをもとに調べるなどしてください。また、様々なワークショップ事例もリサーチしてください。ポイントは、どういった「ねらい」で、どのような「方法」で行うかです。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | アーティスト・イラストレーターやグラフィックデザイナーの持っている造形ワークショップなど企画・運営のノウハウを講義を通じて学ぶ。 |
| 受講生へのメッセージ | 近年では、いわゆる「学び」の場だけではなく、企業などが主催するイベントにおいてもワークショップが盛んに行われています。<br>「美育」という言葉が指す社会的意義と、具体的なワークショップ事例を知っているだけでも、皆さんにとって大きな力となるはずです。 |

| 授業科目名 | 映像制作入門 | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | 専門 | ― | CD・VD・OA | 1年次 | 1(16) |
| 必修・選択 | CD・VD選択必修／OA選択 | その他履修条件 | - | | | | |
| 開講期 | 7月～10月（ゼミ期） | 代表曜日・時限 | 金1・2 | 資格対応 | ― | | |

| 担当教員 | 中村武志・滝澤弘志・金井真一・大井川茂兵衛・松本千尋 ほか | 講師の実務経験 | 15年以上 映像クリエイター、映像ディレクター、フォトグラファーほか |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 映像の幅広い分野を「写真」「動画」の2つのトピックから掘り下げます。<br>「入門」と授業名につく通り、今後の映像ライン学びに必要不可欠な基本的知識やスキルを、実際に手を動かし表現を探りながら身につけていきます。 |
| 授業方法 | 講義・演習ベースの授業です。カメラマンや映像クリエイターなどの複数の講師をお迎えします。演習は撮影方法のレクチャーを予定しています。<br>※本授業はゼミ期間中に不定期に開講します。開講予定等は、都度、授業内やクラスルーム、キャンパスインフォメーションを通して発出します。 |

| 授業目標 | | | |
|---|---|---|---|
| | 知識・創意・観点 | カメラ等の原理や機材使用法に対する知識を身につけ以後の自身の制作に活かす | ◯ |
| | 技能・成果 | スチルやムービーの基礎的技術を身につける | ◯ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 講義、演習などの授業形態を問わず、意欲的に取り組む | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | カメラや映像の原理についての幅広い知識・理解を深める | ◎ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 授業内提出物 | 10 | 10 | 10 | 20 | 50 |
| | 受講態度(出席等を含む) | ― | ― | 40 | 10 | 50 |
| | 合計（点） | 10 | 10 | 50 | 30 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 撮影機材に関しては、必要に応じ学校教材を貸し出します。 |
| その他参考書 | 必要に応じて案内します。 |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | 写真編①:カメラ撮影の原理と仕組み / 撮影テーマの発表 / 撮影演習 |
| 2回 | 写真編②:写真集の制作 / 制作物講評 |
| 3回 | 動画編①:テーマを基に動画撮影演習 |
| 4回 | 動画編②:制作物講評 |
| 備考 | 履修者には事前に配布するワークシートに取り組んでください。<br>上記は予定です。講師の都合により開講時期を変更する場合があります。 |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 撮影は、天候や時間帯に大きく影響を受けます。状況により時間外での撮影も必要となりますのでご了承ください。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | 映像ディレクターやクリエイター、フォトグラファーなど実務経験が豊富な講師から、カメラ原理、具体的な機材の使用方法、映像の原理や構成など、基礎的知識を学びます。 |
| 受講生へのメッセージ | 本授業で登場する撮影機材や知識は、皆さんにとって初めてのものばかりかもしれませんが、映像分野で高い専門性を獲得するためには、なくてはならないものばかりです。映像表現を共に楽しみましょう！ |

| 授業科目名 | 映像表現OL | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | 専門 | ー | OA | 2年次 | 1(16) |
| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | ー | | | | |
| 開講期 | 令和9年度開講(予定) | 講師来校予定代表曜日・時限 | 木4 | 資格対応 | ー | | |

| 担当教員 | 土橋利章 ほか | 講師の実務経験 | 10年以上 映像ディレクターほか |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | | | |
| 授業方法 | オンデマンド形式の授業。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | | |
| | 技能・成果 | | |
| | 意欲・自主性・姿勢 | | |
| | 目的意識・共感性 | | |
| | 備考 | ◎・〇・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合計（点） | 20 | 30 | 20 | 30 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優：100点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 第1回 | |
| 第2回 | |
| 第3回 | |
| 第4回 | |
| 第5回 | |
| 第6回 | |
| 第7回 | |
| 第8回 | |
| 備考 | |

令和9年度開講に向けて設定中

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | |
| 受講生へのメッセージ | |

| 授業科目名 | マンガ概論OL | | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義・演習 | 専門 | ー | OA | 1年次 | 1(16) |
| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | ー | | | | | |
| 開講期 | 4月～6月(基礎履修期)<br>オンデマンド | 講師来校予定<br>代表曜日・時限 | 木・3 | 資格対応 | ー | | | |

| 担当教員 | 荒井瑞貴 | 講師の実務経験 | 10年以上 | 漫画家、イラストレーター |
|---|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | マンガの手法を演習します。また自身が感じる魅力的なマンガを観察、洞察することで、より造詣を深めていきます。 | | |
| 授業方法 | 講義の動画の閲覧、課題制作が中心の授業になります。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | マンガを通して、絵の表現力、物語力、総合力を学ぶ | ◎ |
| | 技能・成果 | 作品を成立させるための基本的な表現力(描写力や物語展開力)を養う | ◯ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 発表時の積極性や協調性、提出課題期限を守る | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 講義・演習を通して表現力、物語力、総合力を身につける | ◎ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 提出物 | 20 | 10 | 10 | 20 | 60 |
| | 受講態度(出席等を含む) | 20 | ー | ー | 20 | 40 |
| | 合計（点） | 40 | 10 | 10 | 40 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom |
| その他参考書 | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
| 1回 | 漫画の歴史 |
| 2回 | マンガ制作の流れ、絵で伝える |
| 3回 | ストーリーの構成、起承転結 |
| 4回 | セリフ |
| 5回 | 演出 1 |
| 6回 | 演出 2 |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 時間内で満足のいく制作が難しい場合は、各自時間外で進めること。課題は必ず完成させて提出してください。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | 講師の実務経験からの講義や、実践的な演習課題を出し、それを通じてマンガを描くだけではなく、考察し構成する力を身につけます。 |
| 受講生へのメッセージ | 課題も多くありますが、コツや見え方など手法を実技で学ぶ授業です。表現方法の手段として、「伝わる」というところを重点手にマンガを考えます。 |

| 授業科目名 | インターンシップA | 科目種 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | ◯ | 全科共通 | 1年次 | 1(16) |

| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | ― | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開講期 | 通年 | 代表曜日・時限 | ※ | 資格対応 | ― |

※ 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。

| 担当教員 | 依田由美子・小林駿 | 講師の実務経験 | ― |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | インターンシップとは学生が就業前に企業などで「就業体験」をすることを指します。<br>現場で働く方の姿から、仕事をする上で必要なスキルや姿勢を学び、その場で活かせる自身の強みをインターンシップ期間中に見つけます。 | | |
| 授業方法 | 事前のオリエンテーションや準備からはじまり、インターンシップに臨んだ後はふりかえりを行います。<br>インターン先の選択肢としては、主に「学校連携先企業」「任意の企業および市町村等が主催するインターンシップ」の2種があります。いずれかにおいて計５日間の日数を目安に取り組みます。<br><br>【履修上の注意】<br>学校連携企業へのインターンシップ生決定に際しては、希望調査の内容のみならず、日頃からの全般的修学姿勢なども範疇に入れて選抜を行います。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ | ◎ |
| | 技能・成果 | - | △ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 自ら主体的に関わり、気付き、目の前の事柄にどのように取り組めるかを考え、行動に移す | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 社会で求められる知識を認識する<br>事前準備や現場で出された指示を理解できる | ◯ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | その他提出物 | 10 | ― | 10 | 10 | 30 |
| | 他者との協同 | 10 | ― | 10 | 10 | 30 |
| | 受講態度(出席等を含む) | 15 | ― | 15 | 10 | 40 |
| | 合計（点） | 35 | ― | 35 | 30 | 100（点） |

| | |
|---|---|
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。<br>全ての日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。<br>企業の方からいただく評価と、授業での姿勢およびインターンシップレポートの内容を重視し、評価します。 |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | インターンシップレポート・その他必要に応じて配布 |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 第1回 | 【インターンシップオリエンテーション①】インターンシップAの目的・目標・授業の取り組み方を理解し、ゴールを見据える。 |
| 第2回 | 【インターンシップオリエンテーション②】インターンシップAの取り組みを個人で計画する。学校連携インターンシップ先企業公開および希望調査。 |
| 6月下旬 | 【学校連携インターンシップ先参加学生決定】希望調査等を基に学校と連携して実施するインターンシップ先に参加する学生を決定します。 |
| 第3回 | 【事前準備】インターンシップ先の企業別に、または個人ごとオリエンテーションを行います。 |
| 主に夏期授業期間 | 【インターンシップ実施期間】5日程度のインターンシップの実施 ※ |
| 第4回 | 【ふりかえり】インターンシップ先企業別にふりかえりを行います。 |
| 備考 | 授業の実施時期・曜日または時間は、個人の進捗や、インターン先の企業の都合などにより変更になることがあります。<br>会社までの交通費は自己負担です。市町村主催のインターンシップ事業においては補助金制度が設けられている場合もあります。<br><br>※ 当授業は通年で開講しますが、基本的に「夏期授業期間」の期間内で実施を終えてください。それ以外の期間での実施も可能ですが<br>その場合は、他の履修授業の日程を最優先に計画してください。 |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 企業リサーチを各自おこなう。<br>インターンシップ先へ当日の交通機関を利用した下見をする。<br>インターンシップ先で必要とされるスキルを事前に学び、復習する。 |
| 受講生へのメッセージ | 現場を体験できる貴重な機会です。現場で学び、「働く」ことについて理解を深めましょう。 |

| 授業科目名 | インターンシップB | 科目種 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | ◯ | 全科共通 | 2年次 | 1(16) |

| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | ― | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開講期 | 通年 | 代表曜日・時限 | ※ | 資格対応 | ― |

※ 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。

| 担当教員 | 依田由美子・小林駿 | 講師の実務経験 | ― |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | インターンシップとは学生が就業前に企業などで「就業体験」をすることを指します。<br>現場で働く方の姿から、仕事をする上で必要なスキルや姿勢を学び、その場で活かせる自身の強みをインターンシップ期間中に見つけます。 | | |
| 授業方法 | 事前のオリエンテーションや準備からはじまり、インターンシップに臨んだ後はふりかえりを行います。<br>インターン先の選択肢としては、主に「学校連携先企業」「任意の企業および市町村等が主催するインターンシップ」の2種があります。いずれかにおいて計５日間の日数を目安に取り組みます。<br><br>【履修上の注意】<br>学校連携企業へのインターンシップ生決定に際しては、希望調査の内容のみならず、日頃からの全般的修学姿勢なども範疇に入れて選抜を行います。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ | ◎ |
| | 技能・成果 | - | △ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 自ら主体的に関わり、気付き、目の前の事柄にどのように取り組めるかを考え、行動に移す | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 社会で求められる知識を認識する<br>事前準備や現場で出された指示を理解できる | ◯ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 提出物 | 10 | ― | 10 | 10 | 30 |
| | 他者との協同 | 10 | ― | 10 | 10 | 30 |
| | 受講態度(出席等を含む) | 15 | ― | 15 | 10 | 40 |
| | 合計（点） | 35 | ― | 35 | 30 | 100（点） |

| | |
|---|---|
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。<br>全ての日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。<br>企業の方からいただく評価と、授業での姿勢およびインターンシップレポートの内容を重視し、評価します。 |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | インターンシップレポート・その他必要に応じて配布 |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 第1回 | 【インターンシップオリエンテーション①】インターンシップBの目的・目標・授業の取り組み方を理解し、ゴールを見据える。 |
| 第2回 | 【インターンシップオリエンテーション②】インターンシップBの取り組みを個人で計画する。学校連携インターンシップ先企業公開および希望調査。 |
| 6月下旬 | 【学校連携インターンシップ先参加学生決定】希望調査をもとに学校と連携して実施するインターンシップ先に参加する学生を決定します。 |
| 第3回 | 【事前準備】インターンシップ先企業別または、個人ごとオリエンテーションを行います。 |
| 主に夏期授業期間 | 【主なインターンシップ実施期間】5日程度のインターンシップの実施 ※ |
| 第4回 | 【ふりかえり】インターンシップ先企業別にふりかえりを行います。 |
| 備考 | 授業の実施時期・曜日または時間は、個人の進捗やインターン先の企業の都合などにより変更になることがあります。<br>会社までの交通費は自己負担です。市町村主催のインターンシップ事業においては補助金制度が設けられている場合もあります。<br><br>※ 当授業は通年で開講しますが、基本的に「夏期授業期間」の期間内で実施を終えてください。それ以外の期間での実施も可能ですが<br>その場合は、他の履修授業の日程を最優先に計画してください。 |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 企業リサーチを各自おこなう。<br>インターンシップ先へ当日の交通機関を利用した下見をする。<br>インターンシップ先で必要とされるスキルを事前に学び、復習する。 |
| 受講生へのメッセージ | 現場を体験できる貴重な機会です。現場で学び、「働く」ことについて理解を深め、現場で活かせる自分の特徴を見つけましょう。 |

| 授業科目名 | WEB表現 | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義・演習 | WEBメディアライン | ー | 全科共通 | 1・2・3・4年次<br>※VAは2・3年次 | 1(16) |

| 必修・選択 | CD・VD選択必修／VA・OA選択 | その他履修条件 | 「WEB制作1・2」を履修する場合は履修必須 |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 7月～10月（ゼミ期） | 代表曜日・時限 | 木4 | 資格対応 | |

| 担当教員 | 森澤 木綿子・本藤 佳代子 ほか | 講師の実務経験 | 5年以上 WEB企画ほか |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | WEBサイトの制作においてもっとも重要なのは、目的を達成する＝ターゲットに届くサイトを構築することです。そのためには、サイトの利用体験（UX）や操作性や視覚性（UI）を意識したデザインはもちろんのこと、写真や、映像、イラスト、文字情報など適切なコンテンツを組み合わせた総合的な企画力=“WEB表現力”が必要となります。そうした能力を身につけるために、本授業ではまず現在のWEBを取り巻く状況を把握します。また、第一線で活躍するクリエイターの生の声を聞き、その上で、それぞれがWEBサイト制作におけるターゲットを設定。サイトの構造とページの構成（それぞれ具体的にどんな表現をするのか言葉として記載）を考え、（あとから見て実際に制作することができる）“サイトの設計図”を作成します。 | | |
| 授業方法 | 前半は講義メインの授業。後半は製作したいWEBサイトの企画書を作成しプレゼンを行う。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 届けたいターゲットに刺さる企画とデザインを考える。 | ◎ |
| | 技能・成果 | 説得力のあるプレゼン資料の作成と発表。サイトの構築を目的としない。 | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | どのような表現を使えばターゲットに届くのかを考える。 | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | WEBの成り立ちと現状、今後必要とされる表現方法を考える。 | ◎ |
| | 備考 | ◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点／評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 課題への取り組み | 10 | 15 | ー | 10 | 35 |
| | 成果物 | 10 | 15 | ー | 10 | 35 |
| | 受講姿勢 | ー | ー | 20 | 10 | 30 |
| | 合計（点） | 30 | 20 | 20 | 30 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～65点、良:645点～50点、可:49点～40点、不可:39点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 | |
|---|---|---|
| 1回 | (内容)僕たちが考える“現在のWEB”って何？ | (1)さまざまなWEBサイトの役割と目的を考える |
| 2回 | (内容)企画せよ！　WEBサイト作成に向けたターゲットの設定 | (1)誰に何を届けたいのか？(2)企画を考える |
| 3回 | (内容)企画を考える・サイトの設計図の作成 | (1)素材をリストアップ　(2)サイトの設計図の作成 |
| 4回 | (内容)ゲスト講師による講義 | (1)WEB表現の現場を学ぶ |
| 5回 | (内容)企画を考える・サイトの設計図の作成 | (1)サイトの設計図の作成 |
| 6回 | (内容)企画を考える・サイトの設計図の作成 | (1)サイトの設計図の作成 |
| 7回 | (内容)企画を考える・サイトの設計図の作成 | (1)サイトの設計図の作成 |
| 8回 | (内容)サイトの設計図の発表 | (1)他者に伝わる発表方法を学ぶ |
| 備考 | 上記の計画は目安です。皆さんの学習進捗や、ゲスト講師のご予定などの都合により変動する可能性があります。 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | サイトの設計図で使用する素材の準備や作成などは、授業外で進めましょう。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | さまざまなメディアで多彩なコンテンツを企画・制作してきた経験豊富な講師が授業を担当します。<br>外部講師による単発講座も含んでいます。 |
| 受講生へのメッセージ | WEBはますます社会にとって必要不可欠な存在となり、かつ細分化が進んでいくと思います。今後はどのような業種でも関わることになるでしょう。美専生らしく、美しく使いやすいWEBサイトを企画できる能力を身につける一歩目の授業としてください。 |

| 授業科目名 | ベーシック・アーツA・B | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | 共通 | ー | OA | 配当年次 | 4(120) |
| 必修・選択 | 必修 | その他履修条件 | A…OAの1年次 ／ B…OAの2年次 | | | | |
| 開講期 | 4月～6月（基礎履修期） | 講師来校予定代表曜日・時限 | 金3・4 | 資格対応 | ー | | |

| 担当教員 | 矢作恵 | 講師の実務経験 | 15年以上 | アーティスト |
|---|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | 本授業は、オーバル・アーツ学科における基幹科目です。<br>具体的なハンドワークを通して、「つくること」を起点とした基礎的な造形力と制作における教養的視点を養います。<br><br>本授業では、<br>①基礎的な実技により造形基礎力を育むこと、<br>②各自の興味・関心に基づき制作における探求を開始すること、<br>の2点を主な目標とします。<br><br>実際に手を動かし、試行錯誤を重ねる中で、制作のプロセスそのものを経験として蓄積していきます。 | | |
| 授業方法 | 他授業に関わる①を実際に経験すること、②個人課題を並行して行います。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 制作における基礎的な知識を理解し、素材や行為に対する観点を持ちながら、自らの発想を展開できる | ◎ |
| | 技能・成果 | 基礎的制作力を身につける | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 制作に主体的に取り組み、試行錯誤を通じて継続的に制作を行う姿勢を身につける | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 自らの制作の目的を意識し、他者の制作や視点に触れながら理解を深めることができる | ◯ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物 | 30 | 20 | 20 | 10 | 80 |
| | 受講態度(出席等を含む) | | ー | 10 | 10 | 20 |
| | ー | ー | ー | ー | ー | ー |
| | 合計（点） | 30 | 20 | 30 | 20 | 100（点） |

| | |
|---|---|
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>自身のプロセスをたどる手がかりとして、アイデアなどを自由にスケッチブックやノートに書き留める制作ノートを制作し、ファインアートAでの学習のまとめとして提出します。 |
| テキスト・教材 | ノートやメモ、スケッチブック(大きさ自由)、デッサン用具(画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうきなど)、色彩用具(トーナルカラー、絵の具や筆)、それぞれ各自で用意。なお画用紙はサポートカウンターで購入できる。テキストは必要により配布。 |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | オリエンテーション・自己紹介 |
| 2, 3回 | 基礎演習 ① 個人制作 |
| 4～10回 | 基礎演習 ② 個人制作 |
| 11回 | 基礎演習 ③ |
| 12回 | 個人制作／講評 |
| 備考 | 金曜3、4限が基本の登校日ですが、火曜と水曜の1、2限も授業として登校できます。授業内容は皆さんの学びの進度や技量によって変更します。<br>また、実技に使用する道具は自身で揃えてください。 |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 日頃から、多くの作品に触れるように心がけてください。作品に触れる機会は、美術館やギャラリーで開催される展覧会だけにとどまりません、例えば作品カタログ、インターネットなどの媒体を通しても鑑賞できます。<br>また基礎的な訓練（クロッキーやドローイング等）などは、自宅や通学中の電車内であっても出来ます。必ず毎日行ってください。 |
| 受講生へのメッセージ | 講師はあくまで学生の「助言役」です。講評以外であっても、積極的に制作上の疑問や課題・問題などを自ら発見し、聞きに来てください。 |

| 授業科目名 | パーソナル・アーツゼミA・B | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | 総合 | ー | OA | 1・2年次 | 7(210) |
| 必修・選択 | 選択必修 | その他履修条件 | A…OAの1年次 ／ B…OAの2年次<br>「コレクティブ・アーツゼミA・B」のどちらかを選択 | | | | |
| 開講期 | 7月～10月（ゼミ期） | 講師来校予定<br>代表曜日・時限 | 金3・4 | 資格対応 | ー | | |

| 担当教員 | 矢作恵 ほか | 講師の実務経験 | 15年以上 | アーティスト |
|---|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | 本授業は、「ベーシック・アーツＡ・Ｂ」で培った基礎的な造形力と制作経験を基盤に、各自の関心に基づく個人制作を発展させる選択必修科目です。本校には7つのテクニカルラインがありますが、このテクニカルラインと、自らの関心や違和感を起点に制作を立ち上げ、試行錯誤を通じてその意味を問い続けていきます。<br><br>学生はテーマを設定し、リサーチ、試作、制作、振り返りを繰り返しながら制作を展開します。同時に、素材や出力形態（形式）についても試行錯誤を重ね、表現の可能性を探ります。<br><br>本授業は、個人制作を深めるとともに、その意味や目的を自ら問い続ける姿勢を養うことを目的としています。 | | |
| 授業方法 | 実技ベースの授業です。制作においては完成度のみを目的とせず、プロセスや思考の展開を重視します。教員との対話や講評を通じて制作を捉え直し、方向性を更新していきます。担当教員は専任のほか、本校の7つのテクニカルラインごとの教員を招聘します。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 自らテーマを設定し、リサーチや試行を通じて制作における観点を形成し、発想を展開できる | ◎ |
| | 技能・成果 | 素材や表現方法を選択・応用しながら、自身の表現として具体化できる | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 主体的に取り組み、試行錯誤を重ねながら継続的に制作を展開することができる | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 制作の目的や意味を問い直し、対話や講評を通じて認識を更新しながら制作を深める | ◎ |
| | 備考 | ◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物 | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 |
| | 制作プロセス | 5 | 5 | 5 | 5 | 20 |
| | 受講態度(出席等を含む) | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 |
| | 合計（点） | 25 | 25 | 25 | 25 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 必要により配布 |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 7月1日～5日 | ゼミ期導入プログラム |
| 7月6日～25日 | オリエンテーション |
| 7月26日～10月30日 | 制作等の実技 |
| 10月31日 | まとめ |
| 備考 | ゼミ期:7月1日～10月31日（夏期授業期間:7月1日～8月25日） |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 制作ベースの授業は、授業外での取り組みを念頭においています。授業外でも制作をしてください。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | 合同のオリエンテーション後、履修学生はゼミに分かれ、それぞれの専門分野プロの講師から出題される制作課題を通し、それぞれの分野への理解を深め技術を高めます。 |
| 受講生へのメッセージ | 自身関心を起点に、各専門性について深く学ぶ機会です。しっかりと制作に励み、経験を積み、そして成長の糧としてください。 |

| 授業科目名 | コレクティブ・アーツゼミA・B | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | 総合 | ◯ | OA | 1・2年次 | 7(210) |
| 必修・選択 | 必修 | その他履修条件 | A…OAの1年次 ／ B…OAの2年次<br>「パーソナル・アーツゼミA・B」のどちらかを選択 | | | | |
| 開講期 | 7月～10月（ゼミ期） | 講師来校予定<br>代表曜日・時限 | 金3・4 | 資格対応 | ― | | |

| 担当教員 | 矢作恵 ほか | 講師の実務経験 | 15年以上 | アーティスト |
|---|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | 本授業は、「ベーシック・アーツＡ・Ｂ」で培った基礎的な造形力と制作経験を基盤に、社学連携活動をはじめとした社会課題や他者との関係の中で制作を展開する選択必修科目です。協働的な制作を中心に、社会からの要請を中心に、実社会と接続したプロジェクトを行います。<br><br>本校に寄せられる社学連携活動相談の中からプロジェクトと選択したり、希望に応じて、社学連携活動へ接続するために他ゼミと合流し、より実践的なプロジェクトして進行できます。他ゼミと協働する場合は、その過程において、役割分担や意思決定を行い、協働的に制作していきます。<br><br>本授業は、他者との関係の中で制作を深め、協働によって生まれる表現の可能性とその意味を問い続ける姿勢を養うことを目的としています。 | | |
| 授業方法 | 実技ベースの授業です。本校に寄せられる社学連携活動相談の中から課題を選択するか、他ゼミと合流しグループワークでプロジェクトを行うなど、その方法を選択することができます。担当教員は専任のほか、本校の7つのテクニカルラインごとの教員を招聘します。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 社会課題や要請、他者の視点を踏まえて、制作につなげることができる | ◎ |
| | 技能・成果 | 基礎的制作力を基盤に、協働の中で役割を担いながら、プロジェクトとして制作を具体化できる | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 他者と協働しながら主体的にプロジェクトに関わり、役割分担や意思決定にまで参加できる | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 他者や社会との関係の中で制作の意味や目的を捉え、協働によって生まれる価値を理解し展開できる | ◎ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物 | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 |
| | 制作プロセス | 5 | 5 | 5 | 5 | 20 |
| | 受講態度(出席等を含む) | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 |
| | 合計（点） | 25 | 25 | 25 | 25 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 必要により配布 |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 7月1日～5日 | ゼミ期導入プログラム |
| 7月6日～25日 | オリエンテーション |
| 7月26日～10月30日 | 制作等の実技 |
| 10月31日 | まとめ |
| 備考 | ゼミ期:7月1日～10月31日(夏期授業期間:7月1日～8月25日) |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 制作ベースの授業は、授業外での取り組みを念頭においています。授業外でも制作をしてください。加えて、デザインラインなどのクライアントの要請に基づくプロジェクト型学習においては、チームごとの打ち合わせなどもあります。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | 合同のオリエンテーション後、履修学生はゼミに分かれ、それぞれの専門分野プロの講師から出題される制作課題を通し、それぞれの分野への理解を深め技術を高めます。 |
| 受講生へのメッセージ | この授業では、制作は一人で完結しません。他者の視点を受け取り、自分の考えを変化させていく柔軟さも重要です。経験を積み、これを成長の糧としてください。 |

| 授業科目名 | 自由実践A･B･C･D･E･F･G･H | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | 総合 | ー | 全科共通 | 1･2･3･4年次 | 1(30) |

| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | A･B…全科の1年次 ／ C･D…全科の2年次 ／ E･F…VA3･VD3･CDの3年次 ／ G･H…VA3･3年次およびCDの4年次に配当 |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 随時 | 代表曜日・時限 | － |
| 資格対応 | ー | | |

| 担当教員 | 松本直樹･小林健太郎 | 講師の実務経験 | 5 | グラフィックデザイナー |
|---|---|---|---|---|

**授業概要**

連携企業等から提示される社会課題やコンペ等に対し、実践的にクリエイティブワークで応える授業です。
このため、厳密な授業スケジュールは設定せず、学生が自らエントリーしたプロジェクトごとに進行します。

授業の流れとしては、所定のフォーマットを用いて各プロジェクト課題を選択し、エントリーを行います。課題確定後、それぞれの課題に取り組みます。

連携企業等の課題の場合は、
①当該課題のオリエンテーション → ②制作（中間経過報告・相談） → ③企業等へのプレゼンテーション → ④制作物の納品

コンペの場合は、
①当該コンペへの応募 → ②制作（中間経過報告・相談） → ③結果報告

必要に応じて、ゲストのプロジェクト担当講師を招聘します。
なお、進捗確認に対して応答がない場合は、授業放棄とみなすことがあります。

**授業方法**

実践的な制作中心の授業となります。基本的なアプリケーション等の指導はありません。
他の授業で学習したことや、各自が必要に応じ調べたことを実践の中で応用し、学びを進めます。

**授業目標**

| | | |
|---|---|---|
| 知識・創意・観点 | 他授業での学びや、自身で経験やリサーチを応用できる | ◎ |
| 技能・成果 | 求められているものに対し、制作物を通し、的確に回答することができる | ◎ |
| 意欲・自主性・姿勢 | 主体的に制作を進めることができる（不明なことがあれば、担当教員に問い合わせることができる） | ◎ |
| 目的意識・共感性 | - | |
| 備考 | ◎･○･△の記号は、到達指標･単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

**観点別評価**

| 評価方法 ＼ 評価の観点 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|
| 制作物 | 25 | 25 | 30 | － | 80 |
| 制作物過程 | － | － | 20 | － | 20 |
| | | | | | |
| 合計（点） | 25 | 25 | 50 | － | 100（点） |

**評価の特記事項**

成績通知書･学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。
制作過程･制作物を通した評価となります。制作過程とは、オリエンテーションへとプレザンテーションへの参加とその取り組み姿勢（質問力）などを指します。

**テキスト・教材**

必要により配布。 なお、実践教材にあたる社学連携活動の情報は、Google Classroom「地域連携研究センター」（クラスコード:6k5kjoy）でも見ることができます。
ご活用ください。

**その他参考書**

**授業計画**

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | オリエンテーション（課題説明など） |
| 2～7回 | 制作 |
| 8回 | プレゼンテーション／結果報告 |
| | |
| | |
| | |
| 備考 | |

**時間外での学修**

プレゼンテーションを受けたあとは、各自による制作（個人・グループ）となります。課題提出期限までに間に合うよう完成に向けて制作を続けます。

**講師の実務経験と授業の関係**

デザイン業務における打ち合わせから、納品までの流れを、実践的に学ぶ。

**受講生へのメッセージ**

制作が中心の授業で、その成果は実際に社会で活用される可能性もあります。やりがいを感じることができる授業です。
また進捗確認に対して応答がない場合は、授業の放棄と見做す場合があります。

| 授業科目名 | グラフィックデザイン基礎OLA | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | デザインライン | ー | OA | 1年次 | 1(30) |
| 必修・選択 | 必修 | その他履修条件 | ー | | | | |
| 開講期 | 4月～6月（基礎履修期）オンデマンド | 講師来校予定代表曜日・時限 | 木1･2 金1･2 | 資格対応 | ー | | |

| 担当教員 | 山﨑澄子･小林健太郎 | 講師の実務経験 | 20年以上 グラフィックデザイナー |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | ・ Illustratorの使い方を習得する<br>・印刷物を制作するためのノウハウを習得する<br>・必須課題／Macミニテスト、トレース | | |
| 授業方法 | Macの基本的な使い方、Illustratorの基本操作と、自分で使い方を調べる方法を講義。<br>動画を見ながら各自オペレーションを学ぶ。必須課題のほか、ミニ課題を提出。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 操作方法を学ぶだけでなく、機能を自分で発見し、手順を考えて表現にいかせる | ◎ |
| | 技能・成果 | Mac基礎、Illustrator操作 | ○ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 動画を見ながらミニ課題を作成。または自分で考えて進められる | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | グラフィックアプリケーションやデザインに関する用語の意味を理解する | △ |
| | 備考 | ◎･○･△の記号は、到達指標･単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物 2点 | 30 | 24 | - | 6 | 60 |
| | その他提出物 | ― | | 10 | ― | 10 |
| | 出席率 | ― | ― | 30 | ― | 30 |
| | 合計（点） | 30 | 24 | 40 | 6 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書･学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～50点、可:51点～40点、不可:41点～となります。<br>出席率60%以上、制作物3点の提出が単位認定の基準となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1･2回 | Mac基礎 |
| 3･4回 | Illustrator |
| 5･6回 | Illustrator |
| 7･8回 | Illustrator |
| | |
| | |
| | |
| | |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 課題制作が授業ないで終わらない場合は、授業時間外に進めること。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | ２名のグラフィックデザイナー、エディトリアルデザイナーから、デザインの制作現場で必要とされるアプリケーションの「正しい」オペレーションスキルを習います。 |
| 受講生へのメッセージ | グラフィクソフトは、クリエイティブの現場であればこの先どんな業種に進むにしても使うことになります。絵筆やペンにかわるもうひとつの制作道具として、基本の使い方を習得しておきましょう。 |

| 授業科目名 | グラフィックデザイン基礎OLB | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | デザインライン | ー | OA | 1年次 | 1(30) |

| 必修・選択 | 必修 | その他履修条件 | ー |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 4月～6月（基礎履修期）<br>オンデマンド | 講師来校予定<br>代表曜日・時限 | 木1･2<br>金1･2 | 資格対応 | ー |

| 担当教員 | 山﨑澄子･小林健太郎 | 講師の実務経験 | 20年以上 グラフィックデザイナー |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | ・Photoshop・InDesignの使い方を習得する<br>・印刷物を制作するためのノウハウを習得する<br>・必須課題／レタッチ（トマト）、名刺 | | |
| 授業方法 | Macの基本的な使い方、Photoshop,InDesignの基本操作と、自分で使い方を調べる方法を講義。<br>動画を見ながら各自オペレーションを学ぶ。必須課題のほか、ミニ課題を提出。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 操作方法を学ぶだけでなく、機能を自分で発見し、手順を考えて表現にいかせる | ◎ |
| | 技能・成果 | Photoshop、InDesignの操作 | ○ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 動画を見ながらミニ課題を作成。または自分で調べて進められる | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | グラフィックアプリケーションやデザインに関する用語の意味を理解する | △ |
| | 備考 | ◎･○･△の記号は、到達指標･単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物2点 | 30 | 24 | - | 6 | 60 |
| | その他提出物 | ― | | 10 | ― | 10 |
| | 出席率 | ― | ― | 30 | ― | 30 |
| | 合計（点） | 30 | 24 | 40 | 6 | 100（点） |

| 評価の特記事項 | 成績通知書･学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～50点、可:51点～40点、不可:41点～となります。<br>出席率60%以上、制作物2点の提出が単位認定の基準となります。 |
|---|---|

| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom |
|---|---|
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1･2回 | Photoshop |
| 3･4回 | Photoshop |
| 5･6回 | 名刺作成･InDesign |
| 7･8回 | InDesign･名刺講評会 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| 備考 | |

| 時間外での学修 | 課題制作が授業内で終わらない場合は、授業時間外に進めること。 |
|---|---|
| 講師の実務経験と授業の関係 | ２名のグラフィックデザイナー、エディトリアルデザイナーから、デザインの制作現場で必要とされるアプリケーションの「正しい」オペレーションスキルを習います。 |
| 受講生へのメッセージ | グラフィクソフトは、クリエイティブの現場であればこの先どんな業種に進むにしても使うことになります。絵筆やペンにかわるもうひとつの制作道具として、基本の使い方を習得しておきましょう。 |

| 授業科目名 | グラフィックデザイン基礎OLC | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | デザインライン | ー | OA | 1年次 | 2(60) |

| 必修・選択 | 必修 | その他履修条件 | ー |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 7月～10月(ゼミ期)<br>オンデマンド | 講師来校予定<br>代表曜日・時限 | 月3･4<br>木1･2 |
| 資格対応 | ー | | |

| 担当教員 | 寺島克己･山﨑澄子 | 講師の実務経験 | 20年以上 グラフィックデザイナー |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | 文字組みの概念と誌面レイアウトの基本を学びます。 | | |
| 授業方法 | ビジネス文書のレイアウトからチラシ作成まで段階的にレイアウトを通じて文字組みの反復していきます。またDTPスキルも学びます。<br>本年度は小グループに分け、理解度をチーム内で高め進めていきます。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 読みやすい文字組み | ◎ |
| | 技能・成果 | DTP操作スキル | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 目的に沿ったレイアウト | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 文字組みの | ◎ |
| | 備考 | ◎･○･△の記号は、到達指標･単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物 | 30 | 20 | ー | 20 | 70 |
| | 受講態度(出席等を含む) | 10 | ー | 20 | ー | 30 |
| | 合計（点） | 40 | 20 | 20 | 20 | 100（点） |

| 評価の特記事項 | 成績通知書･学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>文字組み、DTPスキルの理解度 |
|---|---|

| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom |
|---|---|
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1･2回 | オリエン、グラフィックデザインにおける文字組みの重要性 |
| 3･4回 | 文字組みの概念 |
| 5･6回 | |
| 7･8回 | 小テスト |
| 9･10回 | レイアウト基礎/実践　情報の整理 |
| 11･12回 | |
| 13･14回 | |
| 15･16回 | まとめ |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | コンセプトの考案や制作物の制作を進めてください。授業内では主に、アイデアに対するアドバイスや、クオリティーのチェック、その他制作に対する助言をします。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | ２名のグラフィックデザイナー、エディトリアルデザイナーから、デザインの制作現場で必要とされるアプリケーションの「正しい」オペレーションスキルを習います。 |
| 受講生へのメッセージ | 授業内では文字組みの小テストを実施します。基本となる文字組の知識をしっかり身につけ誌面レイアウトに反映しましょう。 |

| 授業科目名 | ビジュアル表現OL | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | 共通 | ー | OA | 1年次 | 1(30) |
| 必修・選択 | 必修 | その他履修条件 | - | | | | |
| 開講期 | 4月～6月（基礎履修期）オンデマンド | 講師来校予定代表曜日・時限 | [前半]火～金1･2 [後半]火4 | 資格対応 | ー | | |

| 担当教員 | 相澤徳行 | 講師の実務経験 | 15年以上 アートディレクター |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | 視覚造形の基礎を学びながら、個性的な発想・個性的な表現を探っていきます。 授業では、紙と筆記用具ベースで実際に手を動かすこと重視し創作していきます。 | | |
| 授業方法 | 授業はオンデマンド形式で実施し、映像および課題を通じて理解を深めます。授業内ではテーマによってはワークシートを配布し、それに基づき講義と実技演習を行います。戸外に出て「取材」をすることもあります。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 既成概念に縛られない構想法による自由で柔軟な発想を身につける | ◎ |
| | 技能・成果 | 発想を制作物に落とし込む力を身につける | ○ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 一次的な造形試行（実際に観る、調べる、実際に手で素材を探るなど）から創造的動機を引き出す力を身につける | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 一次的な造形試行の必要性を理解する | ○ |
| | 備考 | ◎･○･△の記号は、到達指標･単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物 | 40 | 10 | ー | ー | 50 |
| | 受講態度(出席等を含む) | ー | ー | 40 | 10 | 50 |
| | 合計（点） | 40 | 10 | 40 | 10 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書･学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | ビジュアル表現とは　選挙ポスター風自己紹介カードを作成し自分をモチーフに表現してみる |
| 2回 | 色　「春の色」をテーマに素材を探す感性を養う |
| 3回 | 形　クロスワードパズルを作ろう　身近な形の考察 |
| 4回 | 構成　ドットの構成表現　パターンシート作成 |
| 5回 | 発想　9マスのゲームを作成しよう |
| 6回 | 発想　自由な視点からのスケッチ／「固定概念に囚われない発想」と「機能するアイデア」 |
| 7回 | 空間　ひらがなのある風景写真 |
| 8回 | 素材　フロッタージュ(擦り出し)により、さまざまな素材感に触れる |
| 9回 | まとめ　新聞紙を使った共感される創作 |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 実技系科目は、授業外にも制作を行うことを想定しています。課題は必ず完成させて提出してください。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | アートディレクターより出題される複数の課題を通し、全てのビジュアル表現における基礎的思考を学びます。 |
| 受講生へのメッセージ | 造形する上で重要な発想トレーニング、エクササイズです。自由に、そして柔軟に、楽しく取り組みましょう。 |

| 授業科目名 | タイポグラフィ１ | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | デザインライン | ー | 全科共通 | 1 | 1(30) |
| 必修・選択 | VD・CD必修／VA選択 | その他履修条件 | ー | | | | |
| 開講期 | 4月～6月(基礎履修期) | 代表曜日・時限 | 水3・4 | 資格対応 | レタリング技能検定3級 | | |

| 担当教員 | 小林勝彦・小林健太郎 | 講師の実務経験 | 20年以上 アートディレクター |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | レタリングでデザインの造形法の基礎を学びます。日本語書体のレタリングを明朝体とゴシック体で行います。また文字の骨格を素早く描く練習も重ねていきます。後半では英字レタリングまた、技能の強化を図る目的でレタリング技能検定受験にも取り組みます。 | | |
| 授業方法 | 手本通りに鉛筆の手描きで時間をかけて成形します。骨格描きは修正が効かないサインペン等を使って短時間で描く練習です。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 手本の骨格、ウエイト、エレメントを正しく理解する | ◎ |
| | 技能・成果 | 形の観察力、形成力をつける | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 正しく美しい形づくりへの意欲と、完成に向けた粘り強い制作態度を高める | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 文字特有の造形法が広くデザイン造形に通じることを認識する | ◎ |
| | 備考 | ◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点／評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作の質 | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 |
| | 提出物の充足 | ー | ー | 20 | 10 | 30 |
| | 受講態度(出席等を含む) | ー | ー | 15 | 15 | 30 |
| | 合計（点） | 10 | 10 | 45 | 35 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>上記観点には、レタリング技能検定への取り組み状況も含まれています。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom、書体サンプル集、定規一式、鉛筆(2H～2B)、PM用紙(購買のPMパッドからばら買い可)、A4PPC用紙、羽ぼうき、消しゴム、水性中細サインペン |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | 1.オリエンテーション 2.エレメントから一個の漢字 |
| 2回 | 1.基準字体 2.明朝漢字 |
| 3回 | 1.基準字体 2.明朝漢字 |
| 4回 | 1.基準字体 2.ゴシック漢字 |
| 5回 | 1.かな(ひらがな・かたかな) |
| 6回 | 試験対策講座 |
| 7回 | 1.英字ロゴタイプ |
| 8回 | 1.英字ロゴタイプ 2.まとめ |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 実技科目は課題など時間外での制作も念頭に授業を進めます。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | 広告制作やシンボルデザインなどのグラフィックデザインやプランニングの実務を40年以上続け、それらの業務から得たタイポグラフィについての知見や技術を伝える。 |
| 受講生へのメッセージ | レタリングは広くデザインの基礎を培います。この意義を実技を通し学びましょう。 |

| 授業科目名 | タイポグラフィ OL1 | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | デザインライン | ー | OA | 1 | 1(30) |
| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | ー | | | | |
| 開講期 | 4月～6月(基礎履修期)<br>オンデマンド | 代表曜日・時限 | 水3・4 | 資格対応 | ー | | |

| 担当教員 | 小林勝彦・小林健太郎 | 講師の実務経験 | 20年以上 アートディレクター |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | レタリングでデザインの造形法の基礎を学びます。日本語書体のレタリングを主に明朝体で行います。また文字の骨組みである字体を速く描く練習も重ねていきます。後半では英字レタリングまた、レタリング技能検定受験にも取り組み、技能の強化を図ります。 | | |
| 授業方法 | 手本通りに鉛筆の手描きてで時間をかけて成形します。字体は修正が効かないサインペン等を使って短時間で描く練習です | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 水平垂直、曲線の自然さや形のバランスを考え、それを美しさにつなげて表す | ◎ |
| | 技能・成果 | 形の観察力、形成力をつける | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 正しく美しい形づくりへの意欲と、完成に向けた粘り強い制作態度を高める | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 文字特有の造形法が広くデザイン造形に通じることを知る | ◎ |
| | 備考 | ◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作の質 | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 |
| | 提出物の充足 | ー | ー | 20 | 10 | 30 |
| | 受講態度(出席等を含む) | ー | ー | 15 | 15 | 30 |
| | 合計（点） | 10 | 10 | 45 | 35 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>上記観点には、レタリング技能検定への取り組み状況も含まれています。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom、書体サンプル集、定規一式、鉛筆(2H～2B)、PM用紙(購買でPMパッドからばら買い可)、A4PPC用紙、羽ぼうき、消しゴム、水性中細サインペン |
| その他参考書 | 手本を配布 |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 1回 | 1.オリエンテーション 2.エレメントから一個の漢字 |
| 2回 | 1.基準字体 2.明朝漢字 |
| 3回 | 1.基準字体 2.明朝漢字 |
| 4回 | 1.基準字体 2.ゴシック漢字 |
| 5回 | 1.かな(ひらがな・かたかな) |
| 6回 | 試験対策講座 |
| 7回 | 1.英字ロゴタイプ |
| 8回 | 1.英字ロゴタイプ 2.まとめ |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 実技科目は課題など時間外での制作も念頭に授業を進めます。必ず課題を提出できるように時間外でも取り組みます。また同時に試験前には各自試験対策もしてください。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | 広告制作やシンボルデザインなどのグラフィックデザインやプランニングの実務を40年以上続け、それらの業務から得たタイポグラフィについての知見や技術を伝える。 |
| 受講生へのメッセージ | レタリングはグラフィックデザインの基礎です。この意義を実技を通し学びましょう。<br>そしてトレーニングに励み、この基礎技術を確かなものにしましょう。 |

| 授業科目名 | タイポグラフィ2 | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | デザインライン | ー | CD･VD | 2年次以上 | 1(30) |

| 必修・選択 | CD･VD3選択必修／VD2選択 | その他履修条件 | ー | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開講期 | 4月～6月(基礎履修期) | 代表曜日・時限 | 土1･2 | 資格対応 | レタリング技能検定2級 |

| 担当教員 | 小林勝彦･小林健太郎 | 講師の実務経験 | 20年以上 アートディレクター |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | タイポグラフィ１の履修をふまえて創作性や、デザインの用途において書体の使用法を制作実技を通して学習する。 | | |
| 授業方法 | タイプフェイスを構想し、オリジナルフォントをつくり、文章を組み上げるまでを実習。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | レタリングのトレーニングを強化し、デザイン要件の理解からの文字表現方法を体験する | ◎ |
| | 技能・成果 | ビジュアルコミュニケーションとしての文字デザインの形成力をつける | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 文字自身や文字を使った造形への意欲と、適切なデザインの成立に向けた粘り強い制作態度を高める | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | レタリングの造形法が、文字を用いたデザインに転じて発揮されることを理解する | ◎ |
| | 備考 | ◎･○･△の記号は、到達指標･単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作の質 | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 |
| | 提出物の充足 | ― | ― | 20 | 10 | 30 |
| | 受講態度(出席等を含む) | ― | ― | 15 | 15 | 30 |
| | 合計（点） | 10 | 10 | 45 | 35 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書･学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 書体サンプル集、定規一式、鉛筆(2H～2B)、PM用紙(購買でPMパッドからばら買い可)、A4PPC用紙、羽ぼうき、消しゴム、パソコン(Mac)、ソフト(Illustrater) |
| その他参考書 | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
| 1回 | オリエンテーション |
| 2～8回 | 新書体の設計(手描きレタリングをもとにアウトラインデータを作成、 フォント化したのちレイアウト) |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 必要です。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | 広告制作やシンボルデザインなどのグラフィックデザインやプランニングの実務を40年以上続け、それらの業務から得たタイポグラフィについての知見や技術を伝える。 |
| 受講生へのメッセージ | レタリングで習ったことを発展させせることで、グラフィックデザインの基礎を確かなものにしましょう。 |

| 授業科目名 | タイポグラフィOL2 | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | デザインライン | – | OA | 2年次以上 | 1(30) |

| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | – |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 4月～6月(基礎履修期) | 代表曜日・時限 | 土1・2 |
| 資格対応 | レタリング技能検定2級 | | |

| 担当教員 | 小林勝彦・小林健太郎 | 講師の実務経験 | 20年以上 アートディレクター |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | タイポグラフィ１の履修をふまえて創作性や、デザインの用途において書体の使用法を制作実技を通して学習する。 |
| 授業方法 | オンデマンド形式の授業。 |

| 授業目標 | | |
|---|---|---|
| | 知識・創意・観点 | |
| | 技能・成果 | |
| | 意欲・自主性・姿勢 | |
| | 目的意識・共感性 | |
| | 備考 | ◎・〇・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合計（点） | 20 | 30 | 20 | 30 | 100（点） |

| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優：100点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点～となります。 |
|---|---|

| テキスト・教材 | |
|---|---|
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 第1回 | |
| 第2回 | |
| 第3回 | |
| 第4回 | |
| 第5回 | |
| 第6回 | |
| 第7回 | |
| 第8回 | |
| 備考 | |

令和9年度開講に向けて設定中

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | |
| 受講生へのメッセージ | |

| 授業科目名 | グラフィックデザインOL | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | デザインライン | ー | OA | 2年次以降 | 2(60) |
| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | A…VD2・VD3・CDの2年次以降 ／ B…VD3・CDの3年次以降 ／ C…CDの4年次にそれぞれ配当 | | | | |
| 開講期 | 4月～6月(基礎履修期) | 代表曜日・時限 | 火3・4<br>水3・4 | 資格対応 | ー | | |

| 担当教員 | 寺島克己 | 講師の実務経験 | 20年以上 アートディレクター |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | デザイン思考から芽生えるアイディアをより実践的に深められるグラフィックデザインを演習。<br>ビジネスで求められるデザイン、またそのフローを学び実践します。 | | |
| 授業方法 | オンデマンド形式の授業。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | | |
| | 技能・成果 | | |
| | 意欲・自主性・姿勢 | | |
| | 目的意識・共感性 | | |
| | 備考 | ◎・〇・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合計（点） | 20 | 30 | 20 | 30 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優：100点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 第1回 | |
| 第2回 | |
| 第3回 | |
| 第4回 | |
| 第5回 | |
| 第6回 | |
| 第7回 | |
| 第8回 | |
| 備考 | |

令和9年度開講に向けて設定中

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | |
| 受講生へのメッセージ | |

| 授業科目名 | 描写入門 | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | 共通 | ー | CD･VD･OA | 1年次 | 1(30) |

| 必修・選択 | CD選択／必修VD必修<br>OA選択必修 | その他履修条件 | CD科は「描写A」とどちらかを必修 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開講期 | 4月～6月（基礎履修期） | 代表曜日・時限 | 月3･4<br>火1･2 | 資格対応 | ー |

| 担当教員 | 大橋佳世子 | 講師の実務経験 | ー |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | あらゆる造形活動の基礎となる観察力・描写力を養います。デッサンは様々な造形表現の基本的な演習です。<br>ずは『基本形態』から透視図法や光についてなど基本的観点を身につけます。 | | |
| 授業方法 | デッサンの理論をまとめたテキストを配布しながら講義を行い、その後、実技実習となります。<br>各課題作品ができたところで、講評を行います。授業全体を通して10枚程度のデッサンを完成させます。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | デッサンの理論からの描写法を身につける | ◎ |
| | 技能・成果 | 観察からの描写法を身につける | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 作品への取り組み態度（一枚、一枚妥協せず完成させる） | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 基本的なデッサンの理論を理解する | ◎ |
| | 備考 | ◎･〇･△の記号は、到達指標･単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点<br>評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物及び提出物 | 20 | 20 | 10 | 20 | 70 |
| | 受講態度(出席等を含む) | ― | ― | 10 | 20 | 30 |
| | 合計（点） | 20 | 20 | 20 | 40 | 100（点） |

| 評価の特記事項 | 成績通知書･学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>配布したペーパーをファイルに整理し、メモを取る、なども受講態度に反映します。 |
|---|---|

| テキスト・教材 | 画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうき、クロッキー帳などのデッサン用具。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できる。テキストは必要により配布。テキストを入れる透明ファイル、直定規(30 センチ)を毎回用意すること。 |
|---|---|
| その他参考書 | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
| 1回 | 描くための準備:道具の使い方などを習得する |
| 2回 | 基本形態を描く① ー 六面体 |
| 3回 | 基本形態を描く② ー 球体 |
| 4回 | 基本形態を描く③ ー 円柱 |
| 5回 | 基本形態の応用① ー 画面構成 |
| 6回 | モチーフの形をとる ー 計測方法 |
| 7回 | 基本形態の応用③ ー モチーフを観察して描く ー「トイレットペーパー」「球体」 |
| 8回 | 課題制作⑨ |
| 備考 | 1～5回までの授業に関しては、映像教材等を用いた配信授業です。 |

| 時間外での学修 | デッサンの理論をまとめたペーパーを配布しますので、必ず、授業外でも読み込み、用語を深く理解すること。また、各自スケッチブック等を使いエスキースなどを通し、形の取り方、影の付け方、質感の出し方などをおさらいすること。 |
|---|---|
| 受講生へのメッセージ | デッサンは造形の基礎です。絵が上手くなりたい人はもちろん、造形に携わる人は重要な基礎力となります。課題は必ず完成させて提出すること。 |

| 授業科目名 | 描写入門OL | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | 共通 | ー | OA | 1年次 | 1(30) |
| 必修・選択 | 選択必修 | その他履修条件 | 「描写入門」とどちらかを必修 | | | | |
| 開講期 | 4月～6月（基礎履修期）<br>オンデマンド | 代表曜日・時限 | 月3･4<br>火1･2 | 資格対応 | ー | | |

| 担当教員 | 大橋佳世子 | 講師の実務経験 | ー |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | あらゆる造形活動の基礎となる観察力・描写力を養います。デッサンは様々な造形表現の基本的な演習です。<br>まずは『基本形態』から透視図法や光についてなど基本的観点を身につけます。 | | |
| 授業方法 | デッサンの理論をまとめたテキストを参照しながら講義を行い、その後、実技実習となります。<br>各課題作品ができたところで、講評を行います。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | デッサンの理論からの描写法を身につける | ◎ |
| | 技能・成果 | 観察からの描写法を身につける | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 作品への取り組み態度（一枚、一枚妥協せず完成させる） | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 基本的なデッサンの理論を理解する | ◎ |
| | 備考 | ◎･○･△の記号は、到達指標･単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点<br>評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物及び提出物 | 20 | 20 | 10 | 20 | 70 |
| | 受講態度(出席等を含む) | ― | ― | 10 | 20 | 30 |
| | 合計（点） | 20 | 20 | 20 | 40 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書･学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>配布したペーパーをファイルに整理し、メモを取る、なども受講態度に反映します。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom、<br>画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうき、クロッキー帳などのデッサン用具。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できる。テキストは必要により配布。テキストを入れる透明ファイル、直定規(30 センチ)を毎回用意すること。 |
| その他参考書 | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
| 1回 | 描くための準備:道具の使い方などを習得する |
| 2回 | 基本形態を描く① ー 六面体 |
| 3回 | 基本形態を描く② ー 球体 |
| 4回 | 基本形態を描く③ ー 円柱 |
| 5回 | 基本形態の応用① ー 六面体･球体･円柱を構成して描く |
| 6回 | 基本形態の応用② ー 色紙を巻いた箱と紙のカップ　モチーフの形をとる ー 計測方法 |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | デッサンの理論をまとめたペーパーを配布しますので、必ず、授業外でも読み込み、用語を深く理解すること。また、各自スケッチブック等を使いエスキースなどを通し、形の取り方、影の付け方、質感の出し方などをおさらいすること。 |
| 受講生へのメッセージ | デッサンは造形の基礎です。絵が上手くなりたい人はもちろん、造形に携わる人は重要な基礎力となります。課題は必ず完成させて提出すること。 |

| 授業科目名 | 描写1 | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | 共通 | ー | CD･VD･OA | 1年次 | 1(30) |

| 必修・選択 | CD選択必修／VD必修<br>OA選択必修 | その他履修条件 | CD科は「描写B」とどちらかを必修 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開講期 | 4月～6月（基礎履修期） | 代表曜日・時限 | 月3･4<br>火1･2 | 資格対応 | ー |

| 担当教員 | 大橋佳世子 | 講師の実務経験 | ー |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | あらゆる造形活動の基礎となる観察力・描写力を養います。デッサンは様々な造形表現の基本的な演習です。<br>入門で学んだ『基本形態』に関しての知識に基づきながら、立体感や質感、構成など三次元の空間を再現する方法を学びます。 | | |
| 授業方法 | デッサンの理論をまとめたテキストを配布しながら講義を行い、その後、実技実習となります。<br>各課題作品ができたところで、講評を行います。授業全体を通して10枚程度のデッサンを完成させます。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | デッサンの理論からの描写法を身につける | ◎ |
| | 技能・成果 | 観察からの描写法を身につける | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 作品への取り組み態度（一枚、一枚妥協せず完成させる） | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 基本的なデッサンの理論を理解し応用できる | ◎ |
| | 備考 | ◎･〇･△の記号は、到達指標･単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点<br>評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物及び提出物 | 20 | 20 | 10 | 20 | 70 |
| | 受講態度(出席等を含む) | ― | ― | 10 | 20 | 30 |
| | 合計（点） | 20 | 20 | 20 | 40 | 100（点） |

| 評価の特記事項 | 成績通知書･学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>配布したペーパーをファイルに整理し、メモを取る、なども受講態度に反映します。 |
|---|---|

| テキスト・教材 | 画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうきなどのデッサン用具。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できる。テキストは必要により配布。テキストを入れる透明ファイル、直定規(30 センチ)を毎回用意すること。 |
|---|---|
| その他参考書 | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
| 1･2回 | モチーフを描く① |
| 3･4回 | モチーフを描く② |
| 5･6回 | モチーフを描く③ |
| 7･8回 | モチーフを描く④ |
| 9･10回 | モチーフを描く⑤ |
| | |
| | |
| | |
| 備考 | |

| 時間外での学修 | デッサンの理論をまとめたペーパーを配布しますので、必ず、授業外でも読み込み、用語を深く理解すること。また、各自スケッチブック等を使いエスキースなどを通し、形の取り方、影の付け方、質感の出し方などをおさらいすること。 |
|---|---|
| 受講生へのメッセージ | デッサンは造形の基礎です。絵が上手くなりたい人はもちろん、造形に携わる人は重要な基礎力となります。課題は必ず完成させて提出すること。 |

| 授業科目名 | 描写OL1 | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | 共通 | ー | OA | 1年次 | 1(30) |

| 必修・選択 | 選択必修 | その他履修条件 | 「描写1」とどちらかを必修 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開講期 | 4月～6月（基礎履修期）<br>オンデマンド | 講師来校予定<br>代表曜日・時限 | 月3･4<br>火1･2 | 資格対応 | ー |

| 担当教員 | 大橋佳世子 | 講師の実務経験 | ー |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | あらゆる造形活動の基礎となる観察力・描写力を養います。デッサンは様々な造形表現の基本的な演習です。<br>入門で学んだ『基本形態』に関しての知識に基づきながら、立体感や質感、構成など三次元の空間を再現する方法を学びます。 | | |
| 授業方法 | デッサンの理論をまとめたテキストを参照しながら講義を行い、その後、実技実習となります。<br>各課題作品ができたところで、講評を行います。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | デッサンの理論からの描写法を身につける | ◎ |
| | 技能・成果 | 観察からの描写法を身につける | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 作品への取り組み態度（一枚、一枚妥協せず完成させる） | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 基本的なデッサンの理論を理解し応用できる | ◎ |
| | 備考 | ◎･○･△の記号は、到達指標･単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点<br>評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物及び提出物 | 20 | 20 | 10 | 20 | 70 |
| | 受講態度(出席等を含む) | ー | ー | 10 | 20 | 30 |
| | 合計（点） | 20 | 20 | 20 | 40 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書･学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>配布したペーパーをファイルに整理し、メモを取る、なども受講態度に反映します。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom、<br>画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうきなどのデッサン用具。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できる。テキストは必要により配布。テキストを入れる透明ファイル、直定規(30 センチ)を毎回用意すること。 |
| その他参考書 | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
| 1 | 課題①　モチーフを描く　ワイン瓶と丸い果物(あるいは野菜)を構成して描く |
| 2 | 課題②　モチーフを描く　与えられた木片2個とダイコンを構成して描く |
| 3 | 課題③-1　モチーフを描く　手のクロッキー(線画)を10個描く |
| 4 | 課題③-2　モチーフを描く　手のデッサンを描く |
| | |
| | |
| | |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | デッサンの理論をまとめたペーパーを配布しますので、必ず、授業外でも読み込み、用語を深く理解すること。また、各自スケッチブック等を使いエスキースなどを通し、形の取り方、影の付け方、質感の出し方などをおさらいすること。 |
| 受講生へのメッセージ | デッサンは造形の基礎です。絵が上手くなりたい人はもちろん、造形に携わる人は重要な基礎力となります。課題は必ず完成させて提出すること。 |

| 授業科目名 | 描写2 | | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実技 | 共通 | ー | CD·VD3·OA | 1年次 | 1(30) |
| 必修・選択 | CD・VD必修／OA選択 | その他履修条件 | ー | | | | | |
| 開講期 | 7月～10月（ゼミ期） | 代表曜日・時限 | 火1・2 | 資格対応 | ー | | | |

| 担当教員 | 大橋佳世子 | 講師の実務経験 | ー |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | 基礎的なデッサンからの応用。自身の想像力で平面の上に鉛筆を使って、三次元の空間を再現することをします。<br>構想力をつけながら、「視覚伝達」の方法を考察していきます。 | | |
| 授業方法 | 授業始めに簡単な説明と講義を行い、その後、実技実習となります。実習は、まず講師と構想などのディスカッションをし、それから描く作業へと進めていきます。<br>各課題作品ができたところで、講評を行います。授業全体を通して4枚程度のデッサンを完成させます。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 想像力、構想力、描写力を身につける | ◎ |
| | 技能・成果 | デッサンの基礎的な理論からの応用的描写力を身につける | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 作品への取り組み態度（一枚、一枚妥協せず完成させる） | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 基本的なデッサンの理論を理解する | ◎ |
| | 備考 | ◎・〇・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点<br>評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物・提出物 | 30 | 20 | 10 | 10 | 70 |
| | 受講態度（出席等を含む） | ー | ー | 20 | 10 | 30 |
| | 合計（点） | 30 | 20 | 30 | 20 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優：100点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうき、直定規(30センチ)などのデッサン用具。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できる。 |
| その他参考書 | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
| 1回 | 課題制作① |
| 2回 | 課題制作② |
| 3回 | 課題制作③ |
| 4回 | 課題制作④ |
| 5回 | 課題制作⑤ |
| 6回 | 課題制作⑥ |
| 7回 | 課題制作⑦ |
| 8回 | 課題制作⑧ |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 課題が提示されたら必ずたくさんのエスキースを作ること。授業中完成できない作品は時間外で完成させること。未完成で提出しないこと。 |
| 受講生へのメッセージ | デッサンは造形の基礎です。絵が上手くなりたい人はもちろん、造形に携わる人には重要な基礎力となります。 |

| 授業科目名 | 描写OL2 | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | 共通 | ー | OA | 1年次 | 1(30) |

| 必修・選択 | 選択必修 | その他履修条件 | 「描写2」とどちらかを必修 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開講期 | 7月～10月（ゼミ期）<br>オンデマンド | 講師来校予定<br>代表曜日・時限 | 火1・2 | 資格対応 | ー |

| 担当教員 | 大橋佳世子 | 講師の実務経験 | ー |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | 基礎的なデッサンからの応用。自身の想像力で平面の上に鉛筆を使って、三次元の空間を再現することをします。<br>構想力をつけながら、「視覚伝達」の方法を考察していきます。 | | |
| 授業方法 | 授業始めに簡単な説明と講義を行い、その後、実技実習となります。実習は、まず講師と構想などのディスカッションをし、それから描く作業へと進めていきます。<br>各課題作品ができたところで、講評を行います。授業全体を通して4枚程度のデッサンを完成させます。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 想像力、構想力、描写力を身につける | ◎ |
| | 技能・成果 | デッサンの基礎的な理論からの応用的描写力を身につける | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 作品への取り組み態度（一枚、一枚妥協せず完成させる） | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 基本的なデッサンの理論を理解する | ◎ |
| | 備考 | ◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点<br>評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物・提出物 | 30 | 20 | 10 | 10 | 70 |
| | 受講態度（出席等を含む） | ー | ー | 20 | 10 | 30 |
| | 合計（点） | 30 | 20 | 30 | 20 | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優：100点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom、<br>画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうき、直定規(30センチ)などのデッサン用具。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できる。 |
| その他参考書 | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
| 1 | 課題制作① |
| 2 | 課題制作② |
| 3 | 課題制作③ |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 課題が提示されたら必ずたくさんのエスキースを作ること。授業中完成できない作品は時間外で完成させること。未完成で提出しないこと。 |
| 受講生へのメッセージ | デッサンは造形の基礎です。絵が上手くなりたい人はもちろん、造形に携わる人には重要な基礎力となります。 |

| 授業科目名 | 描画表現OLA | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | 共通 | ー | OA | 2年次 | 2(60) |

| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | ー |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 4月～6月(基礎履修期)<br>7月～10月(ゼミ期) | 代表曜日・時限 | (基) 火 3･4<br>(ゼ) 火 1･2 |
| 資格対応 | ー | | |

| 担当教員 | 中山徳幸 | 講師の実務経験 | ー |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | デッサンを中心とした実技授業です。人体のフォルムや動きにみえる骨と筋肉を理解し描写できることを目指し授業を進行します。<br>さらに、構図や光などにこだわり一枚の画として仕上げることを目標とします。 |
| 授業方法 | オンデマンド形式の授業。 |

| 授業目標 | | |
|---|---|---|
| | 知識・創意・観点 | |
| | 技能・成果 | |
| | 意欲・自主性・姿勢 | |
| | 目的意識・共感性 | |
| | 備考 | ◎･〇･△の記号は、到達指標･単位認定との結びつきの強さを示しています。 |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合計（点） | 20 | 30 | 20 | 30 | 100（点） |

| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優：100点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点～となります。 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 第1回 | |
| 第2回 | |
| 第3回 | |
| 第4回 | |
| 第5回 | |
| 第6回 | |
| 第7回 | |
| 第8回 | |
| 備考 | |

令和9年度開講に向けて設定中

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | |
| 受講生へのメッセージ | |

| 授業科目名 | 描画表現OLB | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | 共通 | ー | OA | 2年次 | 1(30) |

| 必修・選択 | 選択 | その他履修条件 | ー | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開講期 | 4月～6月(基礎履修期) | 代表曜日・時限 | 金 1･2 | 資格対応 | ー |

| 担当教員 | 中山徳幸 | 講師の実務経験 | ー |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 主に人体をモチーフとしたペインティング表現を制作を通し学びます。<br>画材は問いませんので、各課題ごとに履修生はアナログか、デジタルかを選択します。アナログ・デジタルともに、デッサン人形を使用し、人体のフォルムや動きにみえる骨と筋肉を理解し描写できることを目指し、授業を進行します。<br>さらに、構図や光などにこだわり一枚の画として仕上げることを目標とします。 |
| 授業方法 | オンデマンド形式の授業。 |

| 授業目標 | | |
|---|---|---|
| | 知識・創意・観点 | |
| | 技能・成果 | |
| | 意欲・自主性・姿勢 | |
| | 目的意識・共感性 | |
| | 備考 | ◎･○･△の記号は、到達指標･単位認定との結びつきの強さを示しています。 |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合計（点） | 20 | 30 | 20 | 30 | 100（点） |

| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優：100点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点～となります。 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 第1回 | |
| 第2回 | |
| 第3回 | |
| 第4回 | |
| 第5回 | |
| 第6回 | |
| 第7回 | |
| 第8回 | |
| 備考 | |

令和9年度開講に向けて設定中

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | |
| 受講生へのメッセージ | |

| 授業科目名 | ミューズ・アーツ1・2 | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | 共通 | ― | VD3・VA3・CD | 3年次 | 11(330) |

| 必修・選択 | 必修 | その他履修条件 | 1…OAの1年次 ／ 2…OAの2年次 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開講期 | 11月～1月（総合制作期） | 講師来校予定代表曜日・時限 | 火～金 1～4 | 資格対応 | ― |

| 担当教員 | 矢作恵・小林駿・小林健太郎・松本直樹 ほか | 講師の実務経験 | 15年以上 | アーティスト ほか |
|---|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業概要 | 各年次における学びの集大成としての制作に取り組みます。<br>課題は、これまでの学びの経験を基盤として継続的に設定するか、各学科に配当されたテクニカルラインごとに出題された課題内容に基づき、取り組みます。<br>必要に応じて講師へ相談し、制作サポートを要請することで、自身の制作における問題解決の一助とします。 また、制作物は「学内展」での発表を前提として制作を進め、「合同講評会」では制作物についてプレゼンテーションを行います。充実した制作期間となるよう、主体的に取り組んでください。 | | |
| 授業方法 | 個人制作が中心となります。主体的に制作を進めてください。大きな制作物や取材等がある場合は、他所での制作を許可する「外部制作届」があります。必ず提出し、担当講師をはじめとした教員への相談やサポートを仰ぎ、集大成としての制作物を完成させてください。 | | |
| 授業目標 | 知識・創意・観点 | 各次における修学の集大成を制作によって達成しプロフェッショナルレベルの質へ到達する | ◎ |
| | 技能・成果 | 課題の意図を理解し、主体的に進め制作物を完成させる | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 制作においてスケジュールやプロセスの管理などのセルフマネジメントをおこなう | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | – | △ |
| | 備考 | ◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 制作物 | 20 | 10 | 10 | ― | 40 |
| | 報告会を含むプロセス | 10 | 10 | 10 | ― | 30 |
| | 受講態度（出席等を含む） | 10 | 10 | 10 | ― | 30 |
| | 合計（点） | 40 | 30 | 30 | ― | 100（点） |
| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 | | | | | |

| | |
|---|---|
| テキスト・教材 | 必要により配布 |
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 10月下旬 | 総合制作期 導入プログラム(企画の立案、企画書作成、制作の開始) |
| 11月下旬 | 中間経過報告会 |
| 1月中旬 | 制作物提出 |
| 1月末 | 学内展、合同講評会 |
| 備考 | 詳細なスケジュールについては、10月下旬の導入プログラムの際に通知します。 |
| 備考 | |

| | |
|---|---|
| 時間外での学修 | 制作ベースの授業は、制作時間が予期せず授業時間の範疇を超えることが多くあります。授業外においても制作を行い計画的に取り組むことが求められます。 |
| 講師の実務経験と授業の関係 | アーティストやグラフィックデザイナーやその他の経験を持つ講師から制作指導を受けます。必要により、各専門分野プロの講師を招聘し、それぞれの分野での実践的技術を高めます。 |
| 受講生へのメッセージ | 学びの集大成として、丹念にそして誠実な取り組みと、これまで培ってきた能力のすべてを傾けた制作を期待します。 |

| 授業科目名 | プロモーションワークA・B・C・D | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | 総合 | ― | 全科共通 | 1・2・3・4年次 | 4(120) |

| 必修・選択 | 必修科目／VD3・VA3・CD選択・OA選択 | その他履修条件 | 1…全科の1年次以降 ／ 1…全科の2年次以降 ／ 3…VD3・CDの3年次以降 ／ 4…CDの4年次に配当<br>AとBの履修には、それぞれ「総合制作1」と「総合制作2」の履修が必須 |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 12月～3月 | 代表曜日・時限 | 火～金 1～3 |
| 資格対応 | ― | | |

| 担当教員 | 依田由美子・小林駿 | 講師の実務経験 | ― |
|---|---|---|---|

| 授業概要 | 自分の制作物を伝える場である「美専展」の企画と計画、および運営を行います。<br>学生主体のチーム編成で、協働して展覧会を開催します。 |
|---|---|
| 授業方法 | 学生主体による授業運営が基本です。活動全体のスケジューリングやチームの具体的な活動内容については、各チームの企画・計画に依ります。<br>必要に応じてスポット講師の招聘や、学校側との打ち合わせを行います。 |

| 授業目標 | | | |
|---|---|---|---|
| | 知識・創意・観点 | 公共性の高いプロモーションと、連帯感あるチームワークに必要な思考様式を形づくる。 | ◎ |
| | 技能・成果 | プロモーションやチームマネジメントに必要なスキルを、実働の中で身につける。 | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 自身の「目標」と「役割」を意識し、各チームの活動に主体的に参画する。 | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 大規模なクリエイティブワーク実施におけるプローモーションとチームワークの重要性を理解する。 | ◯ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ポートフォリオの提出 | 10 | 10 | ― | ― | 20 |
| | グループワーク | 10 | 20 | 10 | ― | 40 |
| | 受講態度(出席、取り組み姿勢、自己評価 等) | 10 | ― | 20 | 10 | 40 |
| | 合計（点） | 30 | 30 | 30 | 10 | 100（点） |

| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>2/3以上の出席を前提に成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。<br>自身の設定した目標達成までのプロセス、所属するチームの活動への主体的な取り組みの度合、また事後のふりかえりも評価に加えます。 |
|---|---|

| テキスト・教材 | ・美専展におけるチーム活動に必要な費用(出資金)が、学生間で集金されます。<br>・1年次は授業期間中に履歴書用写真の撮影を行います。撮影費がかかります。 |
|---|---|
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 第1回 | 授業オリエンテーション、企画書読み合わせ、美専展成功にむけたプランニング |
| 第2回 | サブタイトル実現のためのアイデア出し、サブタイトルの決定 |
| 第3回 | TEAM決定とTEAMの目的・目標決め |
| 第4回～第29回 | 計画及び準備、美専展実施、報告会準備 |
| 第30回 | 美専展報告会 |
| 備考 | |

| 時間外での学修 | 基本的に授業内での活動が主となりますが、チーム毎の企画、計画によっては授業時間外の活動も必要な可能性があります。 |
|---|---|
| 受講生へのメッセージ | ・制作物を「どのように見せるか」は「どのようにつくるか」と同じくらいに重要な考え方です。将来、クリエイターとして活躍するには必須のマインドでもあります。この機会にぜひ身につけましょう。<br>・様々な仲間との関わり合いの中で自己理解を深め、多くのことを積極的に学び取って欲しいと思っています。 |

| 授業科目名 | プロモーション講座A・B | 科目種 | 区分 | 企業等連携 | 設置学科 | 配当年次 | 単位（単位時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実技 | 総合 | ― | 全科共通 | 1・2年次 | 3(90) |

| 必修・選択 | 条件付き選択必修／OA選択 | その他履修条件 | AとBの履修には、それぞれ「総合制作1」と「総合制作2」の履修が必須 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開講期 | 12月～3月 | 代表曜日・時限 | 火～金 1～3 | 資格対応 | ― |

| 担当教員 | 依田由美子・小林駿 | 講師の実務経験 | ― |
|---|---|---|---|

| 授業概要 | 「プロモーションマインドの発芽」にむけ、まずは自分の学びの成果を「どのように見せるのか」ということについて学びます。<br>ポートフォリオ制作を基本の取り組みとしながら「美専展」などの機会を活用して総合制作での制作物をプロモーションすることもできます。<br>また「美専展」については、その計画及び運営にも参加が可能です。その開催にむけて自分らしく協働していくことができます。 |
|---|---|
| 授業方法 | 主に自身のポートフォリオ制作や自身の制作物を題材に、プロモーションマインドの質の向上に取り組みます。<br>また「プロモーションワーク」の履修生による企画に参加し、必要な提出物にも取り組む。 |

| 授業目標 | | | |
|---|---|---|---|
| | 知識・創意・観点 | 質の高いプロモーションのための思考様式を形づくる。 | ◎ |
| | 技能・成果 | プロモーションに必要なスキルをポートフォリオ制作などの活動の中で身につける。 | ◎ |
| | 意欲・自主性・姿勢 | 自身の「目標」と「役割」を意識し、美専展に向けた活動へ積極的に参加する。 | ◎ |
| | 目的意識・共感性 | 大規模なクリエイティブワーク実施におけるプローモーションとチームワークの重要性を理解する。 | ◯ |
| | 備考 | ◎・◯・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。 | |

| 観点別評価 | 評価の観点 / 評価方法 | 知識・創意・観点 | 技能・成果 | 意欲・自主性・姿勢 | 目的意識・共感性 | 合計（点） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ポートフォリオの提出 | 20 | 20 | 10 | 10 | 60 |
| | 美専展の運営・企画への参加や作品の展示 | 10 | ― | 10 | ― | 20 |
| | 受講態度（出席、取り組み姿勢、自己評価 等） | ― | 10 | 10 | ― | 20 |
| | 合計（点） | 30 | 30 | 30 | 10 | 100（点） |

| 評価の特記事項 | 成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。<br>2/3以上の出席を前提に成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。<br>授業期間内に開催されるポートフォリオ講座への参加は必須です。<br>自身の設定した目標達成までのプロセス、美専展に向けた活動への積極的な取り組みの度合、また事後のふりかえりも評価に加えます。 |
|---|---|

| テキスト・教材 | ・ポートフォリオ制作や制作物の展示に必要な素材・備品は基本的に自分で準備してください。<br>・「美専展」に作品を展示する場合は、主に会場費が「プロモーションワーク」の履修生により集金されます。 |
|---|---|
| その他参考書 | |

授業計画

| 実施回・期間 | 授業内容・目標 |
|---|---|
| 第1回 | 授業目的の確認、サブタイトルの決定 |
| 第2回 | 役割の決定、チームの計画案作成 |
| 第3回 | ガントチャートの作成 |
| 第4回 | ポートフォリオ講座 |
| 第5回～第29回 | ポートフォリオの制作、美専展準備 |
| 第30回 | 美専展報告会 |
| 備考 | 1年次は授業期間中に履歴書用写真の撮影を行います。別途写真代が必要になります。 |

| 時間外での学修 | 基本的に授業内での活動が主となりますが、企画、計画によっては授業時間外の活動も必要な可能性があります。 |
|---|---|
| 受講生へのメッセージ | ・制作物を「どのように見せるか」は「どのようにつくるか」と同じくらいに重要な考え方です。将来、クリエイターとして活躍するには必須のマインドでもあります。ポートフォリオの制作や作品展示の計画を通して、ぜひ身につけましょう。<br>・美専展やそれをめぐるTEAM活動との関わり方は一つではありません、それぞれに自分なりのやり方で協働していきましょう。 |